

平成 29 年度スポーツ庁委託事業

「学校における子供の体力向上課題対策プロジェクト」

**中学校、高等学校教員向け等の
女性特有の健康課題に関する普及・啓発
成果報告書**

平成 30 年 3 月



特定非営利活動法人
日本子宮内膜症啓発会議

1、はじめに

月経に起因する月経困難症、過多月経による貧血、無月経、月経前症候群（PMS）などの女性特有の疾患は古来より多くの女性を苦しめ、学生時代のみならず将来の健やかな人生にまで影響を与えています。さらに、近年のライフスタイルの変化に伴い、その患者数は子宮内膜症を例にすると数十倍にも増加していると報告されています。

しかしながら、現行の学習指導要領に鑑みると月経についての教育は小学校4年生と中学校1年生で記載されておりますが、女性特有の疾患についてはほぼ教育されていないというのが現状です。それゆえ、女性生徒・女子運動選手そして指導的立場である教員においても女性特有疾患についての正しい知識や対応方法等の情報が十分ではなく、その発見・対応が遅れることでスポーツのみならず勉学等多方面での活躍場面を阻害し、将来的にも女性としての健やかな一生を送る機会を失ってしまう可能性があると言っても過言ではありません。

そこで、特定非営利活動法人日本子宮内膜症啓発会議は平成28年度より引き続き、平成29年度スポーツ庁委託事業「学校における子供の体力向上課題対策プロジェクト」として中学校、高等学校教員向け等の女性特有の健康課題に関する普及・啓発を女性医療団体、学校関連団体および専門家と連携して実施いたしました。

本事業では、平成28年度に実施した中学・高等学校女子生徒への実態調査および全国の中学・高等学校の教職員を対象として作成・配布した資材を基に、配布資材の使用状況・学校現場における教員の女性特有の健康知識を調査し、更には学校現場において実際に効果的な啓発方法を探るべく生徒・教員・保護者を対象とした行動変容トライアルを実施しました。

自ら月経関連の相談をして良いものか悩んでいる思春期の女子生徒の健康状態や変化にいち早く気づき、保護者への情報提供等により生徒の健康を守っていただけるのは、常日頃生徒に接し、相談先となられる教職員・養護教諭の皆様であると確信しております。また教育委員会・学校関係者皆様におかれましては、是非とも本事業の趣旨と目的をご理解いただき、女子生徒が健やかに学校生活を送り、また将来においても健康的に生活ができる環境づくりができるよう学校現場における定期的な情報提供システムの構築や相談体制の充実に向け本事業報告をご活用いただける事を切に願っております。

平成30年3月10日

特定非営利活動法人日本子宮内膜症啓発会議

目次

1、	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2、	事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4～5
	I. 事業の趣旨・目的	
	II. 事業の内容	
	III. 事業の実施体制	
3、	検討委員会とトライアルワーキンググループについて・・・・・・・・	6～8
4、	調査事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9～21
	I. 調査目的	
	II. 調査方法	
	III. 調査内容	
	IV. 調査結果	
5、	トライアル事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22～66
	I. トライアル事業の目的	
	II. トライアル事業の内容	
	III. 調査内容	
	IV. 調査結果	
6、	まとめ・今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67

2、事業概要

I. 事業の趣旨・目的

月経に起因する月経困難症、過多月経による貧血、無月経、PMS などの女性特有の疾患は古来より多くの女性を苦しめ、学生時代のみならず将来の健やかな人生にまで影響を与えている。さらに、近年のライフスタイルの変化に伴い、その患者数は子宮内膜症を例にすると数十倍に増加していると東大分院のデータで報告されている。しかしながら、現行の教科書要項に鑑みると月経についての教育は小学校4年生と中学校1年生で記載されているが、女性特有の疾患についてはほぼ教育されていないというのが現状である。それゆえ、女子生徒・女子運動選手そして指導的立場である教員においても女性特有疾患についての認識が必ずしも十分な状況とは言えない。平成28年度調査において中学高等学校女子生徒の約80%は月経に関する症状で勉強・運動への支障があると回答し、相談相手の多くは保護者で学校現場において相談する機会が少ないという結果であった。更には毎月重度の月経痛等の症状があっても病気であるという認識は少なく、月経痛は相談するような内容では無いという認識も多くあった。学校現場において常日頃生徒と接する教員が正しい知識を持ち、養護教諭との連携を図って生徒の健康状態や変化に気づき、早い発見と対応が可能となるよう女性医療団体、学校関連団体、専門家が協力し中学・高等学校女子生徒に見られる女性特有疾患のサインや症状、学校現場で必要とされる情報を把握し、それに対する指導や対応を充実することを目標とする。

その成果として女子生徒並びに運動選手が体力・運動能力の向上、そして学生時代のみならず将来においても健康的にいきいきと生活できる環境を創生する機会とする。

II. 事業の内容

(1) 検討委員会の設置

本事業参画団体より委員が選出され、学校現場における課題の明確化、効果的な啓発教育に向けたトライアルを検討する会議を全3回開催

(2) 調査事業

日本中学校体育連盟、全国高等学校体育連盟、全国養護教諭連絡協議会協力のもと平成28年度に全国中学校・高等学校へ配布した資材の利用状況調査を実施。学校長、保健体育教諭、運動部活動顧問、養護教諭を対象とした資材の認識・月経関連疾患の知識、学校内での本問題への取り組み状況などを調査

(3) 行動変容トライアル実行ワーキンググループ（以下WG）設置とトライアルの実施

1. 教員・生徒対象：勉強会実施、前後でアンケートを通じ知識・行動比較を行う
2. 保護者・生徒対象：保健だよりを利用した情報発信、前後でアンケートを通じ知識・行動比較を行う

III. 事業の実施体制

教育・学校体育に係る団体および医療・女性関連団体や有識者等で構成される事業内容・調査検討のための検討委員会および2つのトライアルWGを設置。参画団体より代表者として1名ずつ選出。

(1) 参画団体

公益財団法人日本学校保健会、公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本中学校体育連盟、公益財団法人日本高等学校体育連盟、全日本中学校長会、全国高等学校長協会、全国養護教諭連絡協議会、公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本産科婦人科学会、公益社団法人日本産婦人科医会、一般社団法人日本思春期学会、一般社団法人女性アスリート健康支援委員会

(2) 委員リスト

村松 章伊	日本学校保健会常務理事
川原 貴	日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会委員長
菊山 直幸	日本中学校体育連盟専務理事
須黒 祥子	日本高等学校体育連盟
田代 和正	全日本中学校長会教育情報部長
高野 幸代	全国高等学校長協会
米元 まり子	全国養護教諭連絡協議会事務局長
温泉川 梅代	日本医師会常任理事
明樂 重夫	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会小委員会委員長
安達 知子	日本産婦人科医会常務理事
高橋 健太郎	日本思春期学会常務理事
伊藤 静夫	女性アスリート健康支援委員会理事
百枝 幹雄	日本子宮内膜症啓発会議実行委員長
小林 浩	日本子宮内膜症啓発会議副実行委員長
甲賀 かをり	日本子宮内膜症啓発会議副実行委員長

(3) 事業推進事務局：日本子宮内膜症啓発会議

3、検討委員会とトライアルワーキンググループについて

1) 第1回検討委員会

期日：平成29年6月28日（水）18:00～21:00

会場：フクラシア八重洲 B会議室

出席委員：8名

- 次第：
1. 日本子宮内膜症啓発会議の紹介、参画団体・代表者の紹介
 2. 平成28年度事業の概要報告
 3. 平成29年度事業の趣旨説明
 4. 調査事業について
 5. トライアルについて
 6. スケジュール案

2) 第2回検討委員会

期日：平成29年9月15日（金）18:00～21:00

会場：フクラシア八重洲 Room 1

出席委員：13名

- 次第：
1. 出席団体・代表者の紹介
 2. 平成29年度事業概要再確認
 3. 調査事業報告
 4. 行動変容トライアル事業状況報告
 5. スケジュール

3) 第3回検討委員会

期日：平成29年12月23日（土）13:00～15:00

会場：フクラシア八重洲 Room 3

出席委員：12名, ゲスト：1名, オブザーバー1名

- 次第：
1. 出席団体・代表者の紹介
 2. 平成29年度事業概要確認
 3. 行動変容トライアル1（教員・生徒）結果報告
 4. 行動変容トライアル2（保護者・生徒）結果報告
 5. 行動変容トライアル1・2結果比較
 6. 本年度成果報告まとめ及び今後の課題

4) 行動変容トライアル1（教員・生徒対象）第1回ワーキンググループ（以下、WG）

期日：平成29年7月21日（金）18：00～21：00

会場：フクラシア八重洲 Room 1

出席委員：7名, アドバイザー1名

- 次第：
1. 第1回検討委員会の報告
 2. 参加委員の紹介
 3. 行動変容トライアル事業1（教員・生徒）の概要説明
 4. 学校現場における月経関連疾患教育について
 5. 行動変容トライアル事業1（教員・生徒）内容の協議

5) 行動変容トライアル1（教員・生徒対象）資料作成会議

期日：平成29年8月5日（土）13：00～15：00

会場：日本子宮内膜症啓発会議事務局

出席委員：5名

- 次第：
1. 参加委員の紹介
 2. 第1回ワーキンググループの報告
 3. アンケートについて
 4. 勉強会スライドについて

6) 行動変容トライアル1（教員・生徒対象）第2回 WG

期日：平成29年12月8日（金）18：00～21：00

会場：フクラシア八重洲 Room 1

出席委員：6名

- 次第：
1. 行動変容トライアル事業1（教員・生徒）概要確認
 2. 出席委員の紹介
 3. 教員・生徒対象トライアル実施結果報告
 4. 第3回検討委員会での発表内容協議・まとめ

- 7) 行動変容トライアル2（保護者・生徒対象）第1回 WG
期日：平成29年8月5日（土）10：00～12：00
会場：フクラシア八重洲 Room1
出席委員：6名
次第： 1. 参加委員の紹介
2. 行動変容トライアル事業2（保護者・生徒）
- 8) 行動変容トライアル2（保護者・生徒対象）資料作成会議
期日：平成29年8月12日（土）18：00～20：00
会場：日本子宮内膜症啓発会議事務局
出席委員：5名
次第： 1. 参加委員の紹介
2. 第1回ワーキンググループの報告
3. 実施対象校について
4. アンケートについて
5. 保健だよりについて
- 9) 行動変容トライアル2（保護者・生徒対象）第2回 WG
期日：平成29年12月9日（土）10：00～12：00
会場：フクラシア八重洲 Room1
出席委員：5名
次第： 1. 行動変容トライアル事業2（保護者・生徒）概要確認
2. 出席委員の紹介
3. 保護者・生徒対象トライアル実施結果報告
4. 第3回検討委員会での発表内容協議・まとめ

4、調査事業について

I. 調査背景

平成 28 年度事業では、①中学・高等学校の女子生徒に見られる女性特有疾患のサインや症状、学校現場で必要とされる情報、実態を把握。②現状に対する指導や対応の充実を目指し効果的に周知し関係者による早期の対応を促す。③結果的に、女子生徒並びに運動選手が体力・運動能力の向上、そして学生時代のみならず将来においても、健康的にいきいきと生活できる環境を創生する機会とする。ことを目的に活動し、女子生徒の実態調査結果を基に教員対象の小冊子と生徒対象の啓発ポスターを作成。作成した資材は全国中学・高等学校の学校長および養護教諭の連名宛に配布した。さらに平成 28 年度実態調査結果から、以下の課題があげられた。

- ・ 中学高校女子生徒の約 80%が月経関連疾患で体育・勉学に支障をきたしていると回答
- ・ 学校現場では保健室を含めほとんど相談をしていないと回答
- ・ 相談相手の多くは保護者である
- ・ 重症であっても婦人科等へ通院・治療をしていない
- ・ 全国の中学、高等学校の教職員へ配布した冊子およびポスターの利用状況と課題は不明

そこで本年度事業では、平成 28 年度配布資材の利用状況と教員の月経関連疾患の知識変化、学校内における対応・実運用上の課題を明確にするべく中学・高等学校の教員へアンケート調査を実施した。

II. 調査方法

調査方法： 記述式アンケート調査・無記名回答

調査対象： 協力団体加盟校に所属する学校長、保健体育科教諭、運動部活動の顧問、養護教諭

配布方法： ・ 日本中学校体育連盟、全国高等学校体育連盟を通じて全国の学校長、保健体育科教諭、運動部活動顧問へ調査票・回答票をメール送信
・ 全国養護教諭連絡協議会を通じて養護教諭へ調査票・返信用封筒を郵送

実施期間： 平成 29 年 8 月 1 日～8 月 31 日

回収数： 429（目標 400）

中学校 学校長 61 保健体育科教諭・運動部活動顧問 81

高等学校 学校長 63 保健体育科教諭・運動部活動顧問 69

※保健体育科教諭、運動部活動顧問は役職重複あり

養護教諭 150 ※養護教諭は中学、高等学校の区別なし

調査協力： 日本中学校体育連盟、全国高等学校体育連盟、全国養護教諭連絡協議会、全日本中学校長会、全国高等学校長協会

結果解析： 参画委員・第 2 回検討委員会

II. 冊子「女子特有の健康問題 月経関連疾患と学校生活」についてお伺いします。

回答表に数字もしくは文言を記入してください。

9. この冊子をご存知ですか。

- | | |
|-----------------------|---------------|
| ①読んだ | ②届いているが読んでいない |
| →10, 11, 12, 13, IIIへ | →14, IIIへ |
| ③届いていない | ④届いているか分からない |
| →IIIへ | →IIIへ |

10. 設問9で①と答えた方のみ、回答ください。(複数回答可)

- ①職員会議で紹介した ②教員全員にコピーを渡した
 ③学校での対策を検討開始
 ④養護教諭に一任 ⑤勉強会計画をたてた ⑥何もしていない
 ⑦内容が不十分(ご意見ください);
 ⑧増刷を希望する



11. 設問9で①と答えた方のみ、回答ください。(複数回答可)

この冊子を授業に活用したいと思いますか

- ①積極的に活用したい ②活用したい ③活用したくない ④わからない

12. 設問9で①と答えた方のみ、回答ください。

冊子を読んで、女子生徒の月経随伴症状について対応しやすくなったと思いますか

- ①思う
 ②思わない(理由;
 ③わからない

13. 設問9で①と答えた方のみ、回答ください。

冊子へのご意見ありましたら教えてください。

14. 設問9で②と答えた方のみ、回答ください。(複数回答可)

- ①興味がない ②職務と関係がない ③内容が不十分
 ④養護教諭に一任 ⑤困っている生徒はいない ⑥知っていてもどうにもならない
 ⑦その他(

質問は裏にもあります。

III. ポスター「生理痛がまんしないで」についてお伺いします。
回答表に数字もしくは文言を記入してください。

15. このポスターを見たことがありますか

- ① ある ② ない

→16, 17, 18, IVへ

→IVへ

16. 設問 15 で①と答えた方のみ回答ください。(複数回答可)

どこで、ポスターを見ましたか

①職員会議で紹介(紹介者:)

②教員全員にコピーを配布(配布者:)

③廊下に貼ってある

④保健室に貼ってある

⑤女子トイレに貼ってある

⑥その他 ()

17. 設問 15 で①と答えた方のみ、回答ください。

ポスターにより女子生徒の相談が増えたと思いますか

①増えた

②変わらない

③わからない

18. 設問 15 で①と答えた方のみ、回答ください。

ポスターへのご意見ありましたら教えてください。



IV. 「教員自主勉強用スライド」についてお伺いします。
回答表に数字もしくは文言を記入してください。

19. このスライドはご存知ですか

- ① 見た ②知っているが見ていない ③知らない

→20, Vへ →Vへ

→Vへ

20. 設問 19 で①と答えた方のみ、回答ください。

このスライドへのご意見ありましたら教えてください。

資料コンテンツ

1. 女性の一生とホルモン
2. 中高女子生徒の月経関連疾患調査結果
3. 月経の基礎知識
4. 月経関連疾患の基礎
 - 月経困難症
 - 月経前症候群 (PMS, PMDD)
 - 無月経
5. 女性のライフスタイル変化と月経関連疾患
 - 子宮内腺症を中心に
6. 女子スポーツ選手に特有な注意すべき疾患
7. 貧血について



質問は裏にもあります。

21. 月経随伴症状でどれくらい的女子生徒が勉強及び運動へ障害があると訴えているかご存知ですか

質問は以上です。ご協力、ありがとうございました。

IV. 調査結果

教員対象小冊子の既読率は全体で 23.6%であった。中でも養護教諭が 43.3%と一番多く他教諭との差異が大きかった。生徒対象の啓発ポスター・教員学習用スライドの認知度についても養護教諭と他教諭との差異が大きく、活用方法としては学校内に積極的に掲示するより保健室へ訪問した女子生徒を対象とした受動的な方法が多かった。

また学校内における対応の認識に教諭間で大きなギャップがあり、小冊子既読者の所属する施設の方が学校全体としての対応を進めている傾向があった。症状から見た受診勧奨ができるのは養護教諭であり、受動的な対応は養護教諭・保健体育科教諭・運動部活動顧問のため、各々の立場で学校内の連携がとれるよう学校全体としての施策ができる学校長の目に触れ理解を得る事が重要であると考えられる。

報 告

平成29年度 スポーツ庁委託事業
「学校における子どもの体力向上課題対策プロジェクト」

月経関連疾患啓発冊子およびポスターの
認知及び使用状況の現状調査

2017年9月15日

アンケート背景

実施期間： 2017年8月1日～31日
回収数： 429(目標400)

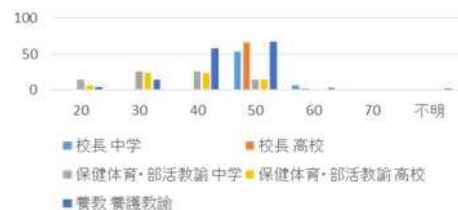
回 答 数	中学	高校	合計	備考
学校長	61	68	129	
養護教諭			150	中高別不明
保健体育科教諭・運動部顧問	81	69	150	保健体育・運動部顧問重複有
合計			429	

性 別	男性	女性	合計	備考
学校長 中学	60	1	61	
学校長 高校	62	6	68	
養護教諭	0	150	150	中高別不明
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	45	36	81	保健体育・運動部顧問重複有
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	43	26	69	
合計	210	219	429	

アンケート背景

回答者年齢分布	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計
学校長				120	9			129
養護教諭	4	15	58	67	3	1	2	150
保健体育科教諭・運動部顧問	21	50	50	29	0	0		150
合計	25	65	108	216	12	1	2	429

回答者年齢分布



生 徒 数	平均	最大	最小	回答数	備考
学校長 中学	204	485	22	61	
学校長 高校	499	1062	34	68	
養護教諭	299	1198	1	147	中高別不明
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	228	485	23	78	保健体育・運動部顧問重複有
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	441	954	15	67	

中高生女子の保健室訪問・相談状況

保健室訪問率	平均女子生徒数	平均訪問人数	平均訪問率	備考			
養護教諭 (n=146)	300.7	7.1	2.1%	中高別不明			
体育・運動部 休み率・相談率	平均女子生徒数	休み／月	休み率	相談有無(校数)	相談有無(校数率)	相談女性教諭率	備考
保健体育科 中学 (n=54)	116.9	2.9	2.5%	21	38.9%	76.2%	
保健体育科 高校 (n=51)	130.4	1.2	0.9%	19	37.3%	68.4%	
運動部 中学 (n=50)	15.6	0.7	4.5%	14	28.0%	57.1%	
運動部 高校 (n=37)	13.8	0.5	3.6%	15	40.5%	73.3%	
運動部 養護教諭 (n= 6)	14.2	2.4	16.9%	6	100.0%	100.0%	運動部顧問あり

参考: 平成28年度調査生徒の保健室相談率 (n=419)
全有効回答者の79.2%の回答。

保健室訪問率は生徒調査と養護教諭調査でほぼ一致して少ない



冊子認知度とアクション 1

冊子 認知度	既読	未読	未達	不明	合計	既読率
学校長 中学	10	7	10	34	61	16.4%
学校長 高校	8	5	6	49	68	11.8%
養護教諭	65	4	30	51	150	43.3%
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	9	4	10	57	80	11.3%
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	9	5	8	47	69	13.0%
合計	101	25	64	238	428	23.6%

*参考

女性既読者数 76人／101人
女性既読率34.7%(養教以外15.9%)
男性既読率11.9%

養護教諭と他教諭に差異が大きい。

学校の体制、送付時期、送付方法等の課題があることが示唆された。

未読: 届いているが未読

未達: 届いていない

不明: 届いているか否かわからない

冊子既読後のアクション (複数回答可)	職員会議で紹介	教員へコピー提供	対策検討開始	養教一任	勉強会計画	何もしない	内容不十分	増刷希望	合計	備考
学校長 中学	4	1	0	5	0	1	1	0	10	
学校長 高校	1	0	3	4	0	0	0	0	8	
養護教諭	1	1	1	29	0	27	2	14	65	
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	0	1	3	2	0	3	0	1	5	無回答4
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	0	0	1	5	0	5	0	2	6	無回答3
合計	6	3	8	45	0	36	3	17	94	無回答7

多くの教諭に認知いただくには校長を巻き込む重要性がうかがわれる。

内容不十分についてのコメント

- ✓ アンケート調査対象校が中・高各1校のため、不十分と考えます。学校の雰囲気(職員の理解、校風、生徒の特性など)により、結果は異なってくると思います。
- ✓ 調査対象が限定・少数である。月経困難症はいたみだけではない。月経前症候群についての記述がない。

冊子認知度とアクション 2

冊子 授業への活用	積極的に活用したい	活用したい	活用しない	わからない	合計	活用希望率	*参考 “わからない”を除くと 活用希望率: 90. 7%
学校長 中学	0	4	1	3	8/10	50.0%	
学校長 高校	0	5	1	1	7/8	71.4%	
養護教諭	1	27	1	29	58/65	48.3%	
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	0	6	2	1	9/9	66.7%	
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	0	6	0	2	9/9	75.0%	
合計	1	48	5	36	90/101	54.4%	

養護教諭と他教諭に差異がある。

より多くの教諭に読んでもらうことが重要であることが示唆された。

冊子により 女子生徒への対応は しやすいになったか	思う	思わない	わからない	合計	対応しやすくなったと思う率	*参考 “わからない”を除くと 活用希望率: 92. 6%
学校長 中学	5	1	1	7	71.4%	
学校長 高校	5	0	2	7	71.4%	
養護教諭	42	1	14	57	55.6%	
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	5	3	1	9	75.0%	
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	6	0	2	8	73.7%	
合計	63	5	20	88	71.6%	

養護教諭と他教諭に差異が大きい。

より多くの教諭に読んでもらう仕掛けが重要であることが示唆された。

冊子を読んでもない理由 (複数回答可)	興味 なし	習得済 み	内容 が十分	読書一 任	即ちでる 生徒なし	どうにも ならない	その他	回答数	その他についてのコメント
学校長 中学	0	1	0	4	0	0	0	5/7	校長:後で読むつもりだったがそのままにしている
学校長 高校	0	1	0	0	0	0	0	3	1/5 校長:実際に生徒と接する教員に任せている。県のスポーツ関係研修等に参加させている(女性特有の健康問題について)
養護教諭	0	0	0	0	1	0	1	2/4	
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	0	0	0	0	2	0	0	2/4	養教: 毎月相談実績あり
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	0	0	0	2	2	0	2	4/5	養教: 希望がない
合計	0	2	0	6	5	0	6	14/25	

Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

ポスター・スライド認知度

ポスター 認知度	既視	未	合計	既視率	
学校長 中学	8	53	61/61	13.1%	
学校長 高校	13	55	68/68	19.1%	
養護教諭	46	103	149/150	30.9%	
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	5	73	78/81	6.4%	
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	14	55	69/69	20.3%	
合計	86	339	425	20.2%	

養護教諭と他教諭に差異がある。

冊子既読率、養護教諭のアクションに依存。

訪問した女子生徒を対象とした受動的な対応が多い。

廊下、トイレは少ない。

冊子既読後のアクション (複数回答可)	職員会議で紹介	教員へコピー提供	廊下に貼り出し	保健室に貼り出し	トイレに貼り出し	その他	合計	備考
学校長 中学	0	0	2	4	0	1	7/8	
学校長 高校	0	0	4	10	1	1	13/13	
養護教諭	0	0	14	21	2	7	42/46	
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	0	0	1	2	0	2	5/5	
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	0	0	8	8	1	0	12/14	
合計	0	0	29	45	4	11	79/86	

その他のコメント

- ✓ 女子が少ないので特に貼ってはいませんでした。これを見て女子トイレに貼ろうと思いました。
- ✓ 見たことはあるがどこで見たか覚えていない
- ✓ 保健室に保管し、必要時見せる

スライド 認知度	既視	未視	知らない	合計	認知率	
学校長 中学	0	3	56	59/61	0%	
学校長 高校	2	3	62	67/68	3.0%	
養護教諭	4	4	140	148/150	2.7%	
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	0	4	73	77/81	0%	
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	1	1	66	68/69	1.5%	
合計	7	15	397	425	1.6%	

情報伝達方法の再検討必要
更なる、雰囲気醸成も必要?

JECIE

Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

ポスターによる相談増減とコメント

ポスターによる相談増減	増	変化なし	わからない	合計	増加率
学校長 中学	0	3	4	7/8	0%
学校長 高校	2	1	8	11/13	18.2%
養護教諭	2	24	8	34/46	5.9%
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	0	4	1	5/5	0%
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	0	1	9	10/14	0%
合計	4	33	30	79/86	5.1%

ポスター貼り出し場所と相談増減	増	変化なし	わからない	合計	増加率
廊下	0	16	7	23/29	0%
保健室	3	14	16	33/45	9.1%
トイレ	1	0	2	3/4	33.3%
合計	4	30	25	59/78	6.8%

判断するには時期尚早
追跡調査検討

ポスターに対するコメント

- ✓ 見たことはあるがどこで見たか覚えていない
- ✓ 女性特有の健康問題については、本人が人に言えず、一人で抱え込んでしまう場合があるので、誰かに相談するきっかけになればと思う。
- ✓ このような啓発活動はどんどん行っていくべきである。
- ✓ 「生理痛」という言葉はできるだけ「月経痛」というようにしている。もちろん生徒には「生理痛」というのが一般的であるが、「月経痛」ということをおしえていきたいと思う。せめてポスターに「月経痛」といっていただければ…と思った。
- ✓ QRコードを読み取った先の情報は生徒向けの保健指導の資料になっていると更に良いと思います。
- ✓ ピンクの優しい色合いが良い
- ✓ 高校生になっていると、自分に合ったコントロール方法を見出している生徒が増えています。もう一歩すすんだ内容を普及していても良いのではないのでしょうか。
- ✓ 4倍くらいの大きさのものが良いと思います。
- ✓ 本校は男の先生が多いという事情もあって、「先生へ」→「保健室へ」の方が良いと思う。



Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

思春期女子の月経トラブルについて

月経に関係する症状で勉強及び運動へ障害があると訴えている女子生徒の率。

回答者	40%	60%	80%	知らず 回答者 計	正答率
学校長 中学	1	8	10	42	61/61
学校長 高校	4	8	14	41	67/68
養護教諭	26	24	42	53	145/150
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	10	11	14	44	79/81
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	6	11	12	40	69/69
合計	47	62	92	220	421/429

知らないが約
50%を占める

回答者比較:全体	80%	回答者 計	正答率
学校長	24	28/129	18.6%
養護教諭	42	145/150	29.0%
保健体育科教諭・運動部顧問	26	148/150	17.6%
合計	92	421/429	21.9%

冊子既読者の正答率は
未読者のほぼ3倍弱
知らないと回答は1名

回答者比較:冊子未読者	80%	回答者 計	正答率
学校長	15	110/111	13.6%
養護教諭	16	82/85	19.5%
保健体育科教諭・運動部顧問	19	130/132	14.6%
合計	50	322/328	15.5%



回答者比較:冊子既読者	80%	回答者 計	正答率
学校長	9	18/18	50.0%
養護教諭	26	63/65	41.3%
保健体育科教諭・運動部顧問	7	18/18	38.9%
合計	42	99/101	42.4%



Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

思春期女子の月経トラブルについて

勉強および運動に影響のある月経に関する症状はどれですか

回答者	① 月経痛	② 月経不順	③ 月経過多	④ 月経前の気分低下	⑤ イライラ	⑥ 乳房痛	⑦ むくみ	⑧ 知らない	回答者計	①-⑧ ○率	①-⑧ ○女性率
学校長 中学	45	22	12	31	33	12	7	13	61/61	4.9%	1
学校長 高校	53	36	25	44	43	11	12	7	67/68	13.4%	1
養護教諭	143	75	80	106	99	46	30	0	50/150	12.0%	18
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	69	35	30	48	59	33	15	4	79/81	15.2%	5
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	63	32	22	41	40	14	11	2	67/69	7.5%	1
回答率 計(%)	88.0%	47.2%	39.9%	63.4%	64.6%	27.4%	17.7%	6.1%	424/429	11.1%	421/429

回答者比較 全体	①-⑧ ○者数	回答者計	正答率
学校長	12	122/129	9.4%
養護教諭	18	150/150	12.0%
保健体育科教諭・運動部顧問	17	146/150	11.6%
合計	47	424/429	11.1%

回答者比較 未読者	①-⑧ ○者数	回答者計	正答率
学校長	12	110/111	10.9%
養護教諭	18	85/85	21.2%
保健体育科教諭・運動部顧問	17	128/132	13.3%
合計	47	323/328	14.6%

全群共に乳房痛、むくみに○率が少ない。ついで過多月経・月経不順。全項目正解率では回答者間に差がない。
性別間で差異はない。(女性だから知っているというわけではない)

回答者比較: 既読者	①-⑧ ○者数	回答者計	正答率
学校長	4	18/18	22.2%
養護教諭	9	65/65	13.8%
保健体育科教諭・運動部顧問	1	18/18	5.6%
合計	14	101/101	14.9%

冊子既読と月経随伴症状の正答率はほぼ同じ

思春期女子の月経痛による痛みの期間

およそ何日間痛みを我慢しているかご存知ですか

回答者	約1日	約2~3日	約4日以上	知らない	回答者計	正答率
学校長 中学	0	21	16	23	60/61	35.0%
学校長 高校	1	33	16	16	66/68	50.0%
養護教諭	6	121	7	9	143/150	84.6%
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	1	43	25	10	79/81	54.4%
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	2	43	16	8	69/69	62.3%
合計	10	261	80	66	417/429	62.6%

回答者比較 全体	2~3日 ○者数	回答者計	正答率
学校長	54	126/129	42.9%
養護教諭	121	143/150	84.6%
保健体育科教諭・運動部顧問	86	148/150	58.1%
合計	261	417/429	62.6%

回答者比較 未読者	2~3日 ○者数	回答者計	正答率
学校長	45	108/111	41.7%
養護教諭	69	82/85	84.1%
保健体育科教諭・運動部顧問	72	130/132	55.4%
合計	186	320/328	58.1%

回答者比較: 既読者	2~3日 ○者数	回答者計	正答率
学校長	9	18/18	50.0%
養護教諭	52	61/65	85.2%
保健体育科教諭・運動部顧問	14	18/18	77.8%
合計	75	97/101	77.3%

冊子既読者と月経痛期間の正答率に若干の差がある

思春期女子の無月経と骨密度

無月経を放置すると骨密度に悪影響があることをご存知ですか

回答者	知ってる	知らない	回答者計	既知率
学校長 中学	30	29	59/61	50.8%
学校長 高校	44	21	65/68	67.7%
養護教諭	98	50	148/150	66.2%
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	39	39	78/81	50.0%
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	49	20	69/69	71.0%
合計	260	159	419/429	62.1%

回答者比較: 全体	知っている	回答者計	既知率
学校長	74	124/129	59.7%
養護教諭	98	148/150	66.2%
保健体育科教諭・運動部顧問	88	147/150	59.9%
合計	260	419/429	62.1%

本情報はまだまだ周知すべき事項であることが示唆

回答者比較: 未読者	知っている	回答者計	既知率
学校長	63	106/111	59.4%
養護教諭	55	84/85	65.4%
保健体育科教諭・運動部顧問	72	129/132	55.0%
合計	190	319/328	59.6%

回答者比較: 既読者	知っている	回答者計	既知率
学校長	11	18/18	61.1%
養護教諭	43	64/65	67.2%
保健体育科教諭・運動部顧問	16	18/18	88.9%
合計	70	100/101	70.0%

冊子既読と月経痛期間の正答率に差はない

思春期女子の月経トラブル相談相手

月経に関する症状で誰に相談しますか

回答者	①保護者	②担任	③養護教諭	④体育教師	⑤部活動教師	⑥先輩友人	⑦相談しない	⑧その他	回答者計	⑨その他 コメント
学校長 中学	46	1	43	3	1	11	6	2	61/61	養教スマホ
学校長 高校	41	3	46	2	4	15	7	4	66/68	養教ネット
養護教諭	121	1	94	1	2	54	23	6	150/150	養教: 受診者もいる
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	57	0	44	5	5	24	7	4	79/81	養教: 生徒によって異なる
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	48	1	47	5	0	10	9	1	69/69	養教さまざま
回答者 計(%)	73.6%	1.4%	64.5%	3.8%	2.8%	26.8%	12.2%	4.0%	425/429	
参考: 平成28年度調査	①保護者	②担任	③養護教諭	④体育教師	⑤部活動教師	⑥先輩友人	⑦相談しない	⑧その他	回答者計	
主1"高3 女子生徒	64.9%	1.7%	3.3%	0%	0.2%	18.4%	29.4%	0.5%	419	

平成28年度 生徒調査

平成29年度 教員調査



生徒調査結果と教員調査結果では養護教諭への相談に大きな違いが出ている。
調査法は違うが、教員が思うほど多くの生徒は相談に行っていない。学校としての対策が必要

思春期女子の貧血対応について

貧血への対応を教えてください

回答者	① 養教一任	② 受診勧奨	③ サプリ推奨	④ 食事改善	⑤ 対象生徒がわからない	⑥ 何もしない	⑦ その他	回答者 計
学校長 中学	26	35	2	26	5	1	4	61/61
学校長 高校	40	23	1	20	7	2	2	66/68
養護教諭	3	135	6	99	11	1	6	150/150
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	16	47	4	45	12	2	4	79/81
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	14	39	3	31	7	3	2	69/69
回答者 計(%)	23.3%	65.6%	3.9%	52.0%	9.9%	2.1%	4.2%	425/429

冊子既読者	① 養教一任	② 受診勧奨	③ サプリ推奨	④ 食事改善	⑤ 対象生徒がわからない	⑥ 何もしない	⑦ その他	回答者 計
学校長	9	9	1	5	2	0	2	19/18
養護教諭	2	55	4	41	4	0	5	65/65
保健体育科教諭・運動部顧問	4	9	1	13	3	0	0	18/18
回答者 計(%)	14.9%	71.3%	5.9%	58.4%	8.9%	0.0%	6.9%	101/101

冊子未読者	① 養教一任	② 受診勧奨	③ サプリ推奨	④ 食事改善	⑤ 対象生徒がわからない	⑥ 何もしない	⑦ その他	回答者 計
学校長	57	50	2	41	10	3	4	109/111
養護教諭	1	80	2	58	7	1	1	85/85
保健体育科教諭・運動部顧問	26	77	6	63	16	5	6	130/132
回答者 計(%)	25.9%	63.9%	3.1%	50.0%	10.2%	2.8%	3.4%	324/328

全群共に貧血知識は充分高いと思われる

基本的には受動対応であり、対象生徒はフェリチンがからっぽの危険あり

貧血症状の理解、体育教諭に加え一般教員と養護教諭の積極的な運動が望まれる

思春期女子の月経トラブルと学校対応

月経トラブルに関して学校で何か対応していますか

回答者	していない	している	回答者計	対応率
学校長 中学	52	8	60/61	13.3%
学校長 高校	48	16	65/68	24.6%
養護教諭	66	83	149/150	55.7%
保健体育科教諭・運動部顧問 中学	62	16	78/81	20.5%
保健体育科教諭・運動部顧問 高校	57	11	68/69	16.2%
合計	286	134	420/429	31.9%

学校における対応率の認識に教諭間で大きなギャップが認められる

冊子既読者の所属する学校の方が学校としての対応を進めている傾向がある

回答者比較: 未読者	している	回答者計	対応率
学校長	17	107/111	15.9%
養護教諭	50	85/85	58.8%
保健体育科教諭・運動部顧問	21	129/132	16.4%
合計	88	320/328	27.5%

回答者比較: 既読者	している	回答者計	対応率
学校長	7	18/18	38.9%
養護教諭	33	64/65	51.6%
保健体育科教諭・運動部顧問	6	18/18	33.3%
合計	46	100/101	46.0%

学校としての対応内容 (対応コメントより集計)	受診勧奨	受動対応	能動対応	回答者数	受診勧奨率	受動対応率	能動対応率
学校長	5	10	8	23/24	20.8%	41.7%	33.3%
養護教諭	39	40	1	80/83	47.0%	48.2%	1.2%
保健体育科教諭・運動部顧問	6	15	1	22/27	22.2%	55.6%	3.7%
合計	50	65	10	125/134	40.0%	52.0%	8.0%

受診勧奨ができるのは養護教諭

受動的な対応は養護教諭、体育部活教諭

学校としての施策ができるのは学校長

*回答者分母数は対応していると回答した数

*受動対応: 保健室乙に相談に来たときの対応

*能動対応: 学校全体で施策を遂行

5、トライアル事業について

I. トライアル事業の目的

平成 28 年度事業で実施した女子生徒の実態調査により、中学高校女子生徒の約 80%が月経随伴症状で体育・勉学に支障をきたしていると回答しているが、学校現場では保健室を含めほとんど相談をしておらず、相談相手の多くは保護者であった。また支障をきたしている症状が重度であっても婦人科等へ通院・治療をしていないことがわかった。そこで、月経関連疾患の正しい認識を持ち、行動変容を起こすために有効で効率的な学校現場での情報伝達方法を探るため2つのトライアルを実施する。実施においてはそれぞれワーキンググループを設置し、内容・調査・結果解析をおこなう。

II. トライアル事業の内容

(1) 教員・生徒を対象とした勉強会によるトライアル（以下、トライアル1）

- ワーキンググループ（以下、WG）を設置
全日本中学校長会、全国高等学校校長協会、全国養護教諭連絡協議会、
日本中学校体育連盟、全国高等学校体育連盟、日本学校保健会、
日本産科婦人科学会
アドバイザー：蓮尾豊（あおもり女性ヘルスケア研究所所長）
 - 勉強会を開催（1回）：産婦人科医が講演
 - 勉強会受講前後でアンケートを実施し、知識・行動の比較を行う
 - 対象：中学2年生、高校1年生 女子生徒および担当教諭
 - 実施校：2校
 - ① 調布市立第六中学校：60分授業 2年生女子生徒・教諭
9月26日実施
 - ② 東京都立葛飾野高等学校：30分授業 1年生男女生徒・教諭
10月25日実施
- 講師：甲賀かをり（日本子宮内膜症啓発会議副実行委員長）
- アンケート方法：学校を通じて調査用紙を配布・回収
 - 事前アンケート：勉強会当日の講演前に回答・回収
 - 事後アンケート：勉強会実施から約2週間～1か月後に回答・回収
- ※アンケートは5分～10分程度で回答できる内容をWGで作成
- 有効回答回収数：

中学校	1回目	生徒 127、教諭 13
	2回目	生徒 127、教諭 12
高等学校	1回目	生徒 152、教諭 7
	2回目	生徒 152、教諭 7

(2) 保護者・生徒を対象とした保健だよりによるトライアル（以下、トライアル2）

- ワーキンググループ（以下、WG）を設置
全日本中学校長会、全国高等学校長協会、全国養護教諭連絡協議会、
日本学校保健会、日本産科婦人科学会
- 保健だよりとして月経関連疾患に関わる情報発信：内容はWGで作成
- 保健だより配布前後でアンケートを実施し、知識・行動の比較を行う
- 対象：中学2年生、高校1年生 女子生徒および保護者
- 実施校：2校
 - ① 市原市立千種中学校：2年生女子生徒・保護者 10月11日配布
 - ② 埼玉県立庄和高等学校：1年生女子生徒・保護者 10月6日配布
- アンケート方法：学校を通じて調査用紙を配布・回収
事前アンケート：保健だより配布前に回答・回収
事後アンケート：保健だより配布から約2週間後に回答・回収
※アンケートは5分～10分程度で回答できる内容をWGで作成
- 有効回答回収数：

中学校	1回目	生徒 67、保護者 67
	2回目	生徒 54、保護者 49
高等学校	1回目	生徒 95、保護者 96
	2回目	生徒 37、保護者 51

(3) 比較対象校として毎年性教育講習会等を実施している学校2校を抽出し、トライアル対象校と同じ中学2年生、高校1年生の女子生徒へ同内容アンケートを実施（1回）

- 実施校：2校
 - ① 調布市立第五中学校：2年生女子生徒
 - ② 栃木県立那須拓陽高等学校：1年生女子生徒
- アンケート方法：学校を通じて調査用紙を配布・回収（1回）
※アンケート内容はトライアル1・2の1回目と同内容
- 有効回答回収数：

中学校	生徒 62
高等学校	生徒 148

III. 調査内容

1 回目アンケート調査票（生徒）

平成 29 年度 スポーツ庁委託事業
「子どもの体力向上課題対策プロジェクト」
中学校、高等学校教員向け等の女性特有の健康課題に関する普及・啓発
アンケート調査ご協力をお願い（生使用 1 回目）

中学校・高等学校に通う皆さんにとってこの 1 年間はからだ心が急速に成長する時期です。特に女子生徒の皆さんにとって、この時期は生理のトラブルも起きる時期でもあります。そこで、生理のトラブルが勉強や運動にどのような影響を及ぼしているのか、また、それを解決するためにどのような対策をしたらよいのかを考えるために、アンケート調査を実施いたします。この調査は名前を記入する必要はなく、誰の答えが中からわからないようになっていますので、安心してアンケート調査へのご協力をお願いします。

「性別」は、正しくは「月経」と書きます。本アンケートでは皆さんがわかりやすいように「生理」「生理痛」と統一しています。

記入日平成 29 年 月 日

あてはまるところに記入もしくははまるものを○でかこんでください。

(1) 学年・高校 年 年

(2) 勉強・運動に影響を及ぼす次の症状はありますか。当てはまる番号を○をつけてください。

- | | | |
|---------------------------------------|------------|------------|
| 1. 生理痛 | 2. 生理不順 | 3. 気分の落ち込み |
| 4. 生理以外の出血 | 5. 生理以外の腹痛 | |
| 6. 生理開始の症状（気分が落ち込み、イライラ、腹痛の痛み、むくみ など） | | |
| 7. 貧血 | 8. その他 | |
| 9. 何もない、またはまだ発現していない（質問 17）へ進んでください | | |

(3) 質問 18 で○以外に○を付けた人にお聞きします。それについて詳しくお話ししたり、調べたりしますか？あるいはしようと思っていますか？あてはまる番号を○をつけてください。

- | | | |
|-----------------------------|-----------------------------|------------------|
| 1. 保健室に相談する | 2. 担任の先生に相談する（担任の先生は 男性・女性） | *どちらかを○でかこんでください |
| 3. 保健室の先生に相談する | 4. 体育の先生に相談する（体育の先生は 男性・女性） | *どちらかを○でかこんでください |
| 5. 保健の先生に相談する（保健の先生は 男性・女性） | 6. どちらかを○でかこんでください | |
| 7. ネットやアプリで調べる | | |
| 8. 誰に相談してもわからない | | |
| 9. 学校では相談しにくい（理由は？） | | |
| 10. 誰にも相談しない（理由は？） | | |
| 11. その他 | | |

1 回目アンケート調査票（教員）

平成 29 年度スポーツ庁委託事業
「学校における子どもの体力向上課題対策プロジェクト」
中学校、高等学校教員向け等の女性特有の健康課題に関する普及・啓発
調査ご協力をお願い（教員用 1 回目）

本調査は、女子生徒の月経（月経）等に関する状況、課題を把握し、より学校環境で必要とされる情報をより効果的に学校環境へ提供することを目的とした調査です。2 回行います。この調査は匿名で行いますのでご自身の氏名及びご所属を記載いたしません。

記入日平成 29 年 月 日

(4) 現在お教室、ご専門、ご役職を教えてください。（複数回答可）

1. 学校長 2. 教務主任 3. 保健体育科教員

4. 運動部顧問

5. その他

(5) 同事務について、該当する性別・年齢に○を付けてください。

1. 男性 2. 女性 年齢：10代・10代・10代・10代・40代以上

(6) 月経調作薬でどれくらい多いの女子生徒が勉強及び運動へ障害があると訴えているかご存知ですか。1 つだけ○をつけてください。

1. 約 1 割 2. 約 2 割 3. 約 3 割 4. 知らない

(7) 月経調作薬のうちの最も多くの女子生徒が勉強・運動に影響があると訴えている症状はどれだと感じますか。1 つだけ○をつけてください。

1. 月経痛 2. 月経不順 3. 過剰な月経 4. 月経時の気分が落ち込み
5. イライラ 6. 腹痛の痛み 7. むくみ 8. 知らない

(8) 実家より通学に際して苦労があるのは月経開始からおおよそ何日間であるかご存知ですか。1 つだけ○をつけてください。

1. 1 日 2. 2～3 日 3. 4 日以上 4. 知らない

(9) 女子生徒の月経痛を軽減する学習環境に関する取り組みを教えてください。1 つだけ○をつけてください。

1. 知っている 2. 知らない

(10) 月経調作薬は病気だと思いませんか。1 つだけ○をつけてください。

1. 病気の可能性が低い 2. 病気の可能性が高い 3. 分からない

(4) 質問 18 で○以外に○を付けた人にお聞きします。その症状は病気だと思いませんか。1 つだけ○をつけてください。

1. はい
2. いいえ
3. 分からない
4. その他

(5) 質問 19 で○以外に○を付けた人にお聞きします。その症状は「自然によくなる」と感じますか？1 つだけ○をつけてください。

1. はい
2. いいえ
3. 分からない

(6) 質問 20 で○以外に○を付けた人にお聞きします。生理痛の程度はどれくらいですか。1 つだけ○をつけてください。

1. 我慢できる
2. 薬を飲めば我慢できる
3. 勉強・運動（体育の授業）をするのがつらい・集中できない
4. 休む必要がある
5. 1 日以上休む
6. その他

(7) 今回のアンケートで聞いた質問 18 の 1～7 までの症状を月経調作薬（病）（生理に伴ういろいろな症状）という病名の女子の勉強・運動に影響を及ぼしています。この症状について聞きたい事があったら書いてください。

質問は以上です。ご協力、ありがとうございます。

お問い合わせ先

平成 29 年度スポーツ庁委託事業「学校における子どもの体力向上課題対策プロジェクト」
中学校、高等学校教員向け等の女性特有の健康課題に関する普及・啓発事業事務局
〒104-8043 東京都中央区築地 1-4-8 築地ホワイトビル 843
TEL: 03-6228-4804 FAX: 03-6228-4364

(17) 月経調作薬は治ると感じますか。1 つだけ○をつけてください。

1. 病院で治療を受けると良くなる 2. 病院に行く必要はない
3. 分からない

(18) 月経調作薬について女子生徒は誤に誤解していると思いますか。1 つだけ○をつけてください。

1. 誤解者 2. 正しい 3. 誤解者 4. 誤解者 5. 誤解者
6. 誤解者 7. 誤解者 8. 誤解者 9. 誤解者 10. 誤解者
11. 誤解者

(19) 女子生徒の月経調作薬のサインに気づいていますか。1 つだけ○をつけてください。

1. 気づいている 2. 気づいていない

(20) 月経調作薬で知識に不足する生徒はいますか。1 つだけ○をつけてください。

1. 増えた 2. 変わらない 3. 減った 4. 分からない

(21) 月経調作薬等に関して学校で何が起こり込んでいますか。1 つだけ○をつけてください。

1. 学校ですぐに気づいている
2. 学校ですぐに気づいていない
3. 学校ですぐに気づいていないが個人的に声をかけている。
4. 何もしていない

(22) 女子生徒の月経調作薬等について月経調作薬のこと、ご意見・ご感想等ございましたらお聞かせください。

質問は以上です。ご協力、ありがとうございます。

お問い合わせ先

平成 29 年度スポーツ庁委託事業「学校における子どもの体力向上課題対策プロジェクト」
中学校、高等学校教員向け等の女性特有の健康課題に関する普及・啓発事業事務局
〒104-8043 東京都中央区築地 1-4-8 築地ホワイトビル 843
TEL: 03-6228-4804 FAX: 03-6228-4364

1 回目アンケート調査票(保護者)

平成 29 年度 スポーツ庁委託事業
「学校における子どもの体力向上課題対策プロジェクト」
中学校、高等学校教員向け等の女性特有の健康課題に関する普及・啓発
調査ご協力のお願い (保護者用 1 回目)

本調査は、女子生徒の月経調節不安 (月経に伴ういろいろな症状) 等に関する観測・調査を併進にし、より学校現場で必要とされる情報をより効果的に生徒、保護者・教職員へ届けることを目的とした調査で2回行います。
この調査は無記名で行いますのでご自身のないご意見及びご回答をお願いいたします。
※「生理」は、正しくは「月経」と言います。
本アンケートでは「月経」「月経痛」と統一しています。

記入日 平成 29 年 月 日

(1) 回答者について、該当する性別・年齢に○をつけてください。
1. 男性 2. 女性 年齢: 20 代・30 代・40 代・50 代・60 代以上

(2) 月経調節不安でどれくらいの子供生徒が経験及び課題へ障害があると訴えているかご存じですか。1 つだけ○をつけてください。
1. 約 4割 2. 約 3割 3. 約 2割 4. 知らない

(3) 月経調節不安のうち最も多くの子供生徒が腹痛・腰痛に訴えていると訴えている症状はどれだとお思いですか。1 つだけ○をつけてください。
1. 月経痛 2. 月経不調 3. 過多月経 4. 月経前の気分の変り込み
5. イライラ 6. 乳房の痛み 7. むくみ 8. 知らない

(4) 主要な月経異常において痛みがあるのは月経開始から何日まで何日間であるかご存知ですか。1 つだけ○をつけてください。
1. 1 日 2. 2～3 日 3. 4 日以上 4. 知らない

(5) 女子生徒の月経痛を放置すると学習面に悪影響があることをご存知ですか。1 つだけ○をつけてください。
1. 知っている 2. 知らない

(6) 月経調節不安は病気だと思えますか。1 つだけ○をつけてください。
1. 何らかの病気が潜んでいる可能性がある 2. 病気ではない
3. わからない

(7) 月経調節不安は治ると思えますか。1 つだけ○をつけてください。
1. 病院で治療を受けると良くなる 2. 病院に行く必要はない
3. わからない

(8) 月経調節不安についてお子様は誰にも相談していると聞きますか。1 つだけ○をつけてください。
1. 保護者 2. 担任の先生 3. 養育教員 4. 保健体育の先生
5. 部活の先生 6. 先輩や友達 7. 誰にも相談しない
8. その他 ()

(9) お子様の月経調節不安のサインに気づいていますか。1 つだけ○をつけてください。
1. 気づいている 2. 気づかない 3. 月経調節不安はないと思う
4. まだ月経はない→質問 (10) に進んでください。

(10) 最近、月経調節不安でお子様から相談されることは増えていますか。1 つだけ○をつけてください。
1. 増えた 2. 変わらない 3. 減った 4. わからない

(11) 月経調節不安に気づいてご自宅でも対応していますか。1 つだけ○をつけてください。
1. 病院に連れていく 2. 市販薬を飲むように促している
3. 声かけをしている 4. 特にしていない

(12) お子様の月経調節不安等についてお困りなりのこと。ご意見・ご要望等ございましたらお聞かせください。

質問は以上です。ご協力、ありがとうございました。

お問い合わせ先
平成 29 年度 スポーツ庁委託事業「学校における子どもの体力向上課題対策プロジェクト」
中学校、高等学校教員向け等の女性特有の健康課題に関する普及・啓発事業事務局
〒104-0045 東京都中央区新橋 1-4-8 新橋ホワイトビル 802
TEL: 03-6228-4804 FAX: 03-6228-4364

2 回目アンケート調査票(生徒)

平成 29 年度 スポーツ庁委託事業
「子どもの体力向上課題対策プロジェクト」
中学校、高等学校教員向け等の女性特有の健康課題に関する普及・啓発
アンケート調査ご協力のお願い (生徒用 2 回目)

10 月に仕事前に関する調査をしました。今回は、2 回目のアンケートになりますが、内容は 1 回目と同じです。授業を受けていただいた皆様の知識や考え方がどのように変わったかを把握するためにあります。
この調査は名前を記入する必要はなく、匿名で答えていただくようになっていきますので、安心してアンケート調査へのご協力をお願いします。

記入日 平成 29 年 月 日

あてはまるところに入力もしくは任意を○でかこんでください。

(9) 体調面に関する情報をいただきましたか。1 つだけ○をつけてください。
1. 受けた。 2. 受けていない。→課題は終了です。ご協力ありがとうございました。

(11) 立学・産院 年 生

(12) 動物・運動に影響を与える次の症状はありますか。当てはまる番号全部に○をつけてください。
1. 生理痛 2. 生理不調 3. 生理の量が多い
4. 生理以外の出血 5. 生理以外の腹痛 6. 生理前の症状 (気分が落ち込む、イライラ、乳房の痛み、むくみ など)
7. 貧血 8. その他 ()
9. 何もなし、またはまだ生理になっていない→質問 (13) に進んでください

(13) 質問 (8) で 2 以外に○を付けた人にお聞きします。それについて誰に相談したり、調べたりしますか? あるいはしうと思っていますか? 当てはまる番号全部に○をつけてください。
1. 保護者に相談する
2. 担任の先生に相談する (担任の先生は 男性・女性) *どちらかを○でかこんでください
3. 保健室の先生に相談する
4. 体育の先生に相談する (体育の先生は 男性・女性) *どちらかを○でかこんでください
5. 部活の先生に相談する (部活の先生は 男性・女性) *どちらかを○でかこんでください
6. 先輩や友達に相談する
7. スマートフォンやパソコンで調べる
8. 誰にも相談して良いかわからない
9. 学校では相談しにくい (理由は何?)
10. 誰にも相談してない (理由は何?)
11. その他 ()

(4) 質問 (3) で 2 以外に○を付けた人にお聞きします。その症状は病気だと思えますか? 1 つだけ○をつけてください。
1. はい
2. いいえ
3. わからない
4. その他:

(5) 質問 (4) で 2 以外に○を付けた人にお聞きします。その症状は「自然に良くなる」と思えますか? 1 つだけ○をつけてください。
1. はい
2. いいえ
3. わからない

(6) 質問 (5) で 1 に○を付けた人にお聞きします。牛痘病の程度はどれくらいですか。1 つだけ○をつけてください。
1. 治療できる
2. 薬を飲めば改善できる
3. 動物・運動 (体育の授業) をするのがづらい・途中でできない
4. 慣らなくて休養が必要
5. 1 日以上寝込む
6. その他:

(7) 今回のアンケートで聞いた質問 (1) の 1～7 までの症状を月経調節不安 (牛痘に伴ういろいろな症状) という学名のある女子が経験・課題に影響を受けています。今回、授業を受けて何が勉強になったか、どんな行動をしようと思ったか、学校に対する要望など教えてください。

質問は以上です。ご協力、ありがとうございました。

お問い合わせ先
平成 29 年度 スポーツ庁委託事業「学校における子どもの体力向上課題対策プロジェクト」
中学校、高等学校教員向け等の女性特有の健康課題に関する普及・啓発事業事務局
〒104-0045 東京都中央区新橋 1-4-8 新橋ホワイトビル 802
TEL: 03-6228-4804 FAX: 03-6228-4364

平成 29 年度スポーツ庁委託事業
『学校における子どもの体力向上課題対策プロジェクト』
中学校、高等学校教員向け等の女性特有の健康課題に関する普及・啓発
調査ご協力のお願い（教員用 2 回目）

本調査は、女子生徒の月経開始年齢等に関する現状・課題を明確にし、より学校現場で必要とされる情報より効果的に学校教員へ周知することを目的とした調査です。2 回目のアンケートは 1 回目と同じ内容ですが、前調査を受けていただいた方に配慮の加減や考えがどのように変わったかを調べるためにしています。

この調査は匿名で行いますのでご不快のないご意見及びご回答をお願いいたします。

記入日 平成 29 年 月 日

(0) 現在の状況、ご専門・ご経験を教えてください。（複数回答可）
1. 学校長 2. 養護教諭 3. 保健体育科教師
4. 運動部活動顧問
5. その他（ ）

(1) 読者について、該当する性別・年齢に○をつけてください。
1. 男性 2. 女性 年齢：20 代・30 代・40 代・50 代・60 代以上

(2) 月経痛症状などで悩む女子生徒が勉強・運動・授業があると悩んでいるかご存知ですか、1 つだけ○をつけてください。
1. 約 4割 2. 約 5割 3. 約 6割 4. 知らない

(3) 月経痛症状のうち最も多くの女子生徒が勉強・運動に影響があると悩んでいる症状はどれか
と悪いですが、1 つだけ○をつけてください。
1. 頭痛 2. 目眩・嘔吐 3. 満月・腰痛 4. 月経前の気分の変動
5. イライラ 6. 食前の満腹 7. ぐっすり 8. 知らない

(4) 正常な月経周期において痛みがあるのは月経開始からおよそ何日間であるかご存知ですが、1 つだけ○をつけてください。
1. 1 日 2. 2～3 日 3. 4 日以上 4. 知らない

(5) 女子生徒の月経痛を放置すると学習面に悪影響があることをご存知ですか、1 つだけ○をつけてください。
1. 知っている 2. 知らない

(6) 月経痛症状は病気だと悪く思いますが、1 つだけ○をつけてください。
1. 病気の病気が隠れている可能性がある 2. 病気ではない
3. わからない

(7) 月経痛症状は治ると悪いですが、1 つだけ○をつけてください。
1. 病院で治療を受けると良くなる 2. 病院に行く必要はない
3. わからない

(8) 月経痛症状について女子生徒は最も悩んでいると思いますか、1 つだけ○をつけてください。
1. 母親 2. 担任の先生 3. 養護教諭 4. 保健体育科の先生
5. 生活科の先生 6. 先輩や後輩 7. 誰にも相談しない
8. その他（ ）

(9) 女子生徒の月経痛症状のサインに気づいていますか、1 つだけ○をつけてください。
1. 気づいている 2. 気づかない

(10) 勉強会、月経痛対策で相談に来る生徒は増えましたか、1 つだけ○をつけてください。
1. 増えた 2. 変わらない 3. 減った 4. わからない

(11) 月経痛症状等に関して学校で何か取り組んでいますか、1 つだけ○をつけてください。
1. 学校で十分に取り組んでいる
（具体的に教えてください）
2. 学校での取り組みを検討中
3. 学校では取り組みがないが個人的に声をかけている。
4. 何もしていない

(12) 女子生徒の月経痛対策について日頃お聞きのこと、ご意見・ご感想等ございましたらお聞かせください。

質問は以上です。ご協力、ありがとうございました。

お問い合わせ先
平成 29 年度スポーツ庁委託事業『学校における子どもの体力向上課題対策プロジェクト』
中学校、高等学校教員向け等の女性特有の健康課題に関する普及・啓発事業事務局
〒164-0645 東京都中央区新富 1-9-8 新富のワイルドビル 802
TEL：03-6228-4804 FAX：03-6228-4354

平成 29 年度スポーツ庁委託事業
「学校における子どもの体力向上取組対策プロジェクト」
中学校、高等学校教員向け等の女性特有の健康課題に関する普及・啓発

調査ご協力をお願い(保護者用 2 回目)

10 日に連続日より(解別用)を配布しました。今回は、2 回目のアンケートになります。内容は 1 回目と同等です。連続日よりお返しいただいた後に冒頭の知識や考え方がどのように変わったかを調べるために行います。この調査は無記名でいただきますのでご想像のないご意見及びご回答をお願いいたします。

記入日 平成 30 年 月 日

(1) 健康だより(解別用)を分配しました。1 つだけ○をつけてください。
1. 読んで、子供と話をした。
2. 読んで、子供と話していない。
3. 読んでいない。一読者は終了です。ご協力ありがとうございます。

(2) 調査者について、該当する性別・年齢に○をつけてください。
1. 男性 2. 女性 年齢: 30 代・30 代・40 代・50 代・60 代以上

(3) 月経不調や 夜・早寝などの女子生徒が経験及び通期・閉経があると察しているかご存知ですか。1 つだけ○をつけてください。
1. 約 8 割 2. 約 6 割 3. 約 4 割 4. 知らない

(4) 月経不調症状のうち最も多くの女子生徒が経験・意識に影響があると察している症状はどれだとお考えですか。1 つだけ○をつけてください。
1. 月経痛 2. 月経不調 3. 過多月経 4. 月経量の減少の育ち込み
5. イライラ 6. 乳首の痛み 7. むくみ 8. 知らない

(5) 女子は月経不調において悩みがあるのは月経開始から以上を生理時であるかご存知ですか。1 つだけ○をつけてください。
1. 1 月 2. 2 ～ 3 月 3. 4 日以上 4. 知らない

(6) 女子生徒の教員に放置すると学習態度に影響があることをご存知ですか。1 つだけ○をつけてください。
1. 知っている 2. 知らない

(7) 月経不調症状は調査だとお考えですが、1 つだけ○をつけてください。
1. 何処の病院か決まっている可能性がある 2. 何処でもない

(8) 月経不調症状についてお子様が最も相談しているとお考えですか。1 つだけ○をつけてください。
1. 調子 2. 担任の先生 3. 家庭教師 4. 保健室の先生
5. 国語の先生 6. 英語や数学 7. 誰にも相談しない

(9) お子様の月経不調症状のサインに気づいていますか。1 つだけ○をつけてください。
1. 気づいている 2. 気づかない 3. 月経不調症状はないと思う
4. まだ月経はない(質問 1 (2) に通ってください)

(10) 最近、月経不調症状でお子様から相談されることは増えていますか。1 つだけ○をつけてください。
1. 増えた 2. 変わらない 3. 減った 4. おかしい

(11) 月経不調症状に際してご自宅でお子様が対応していますか。1 つだけ○をつけてください。
1. 病院に連れて行く
2. 市販薬を飲むように言っている
3. 声かけをしている
4. 何にしているか

(12) お子様の月経不調症状等について日頃から関心のこと、ご意見・ご要望等ございましたらお聞かせください。

質問は以上です。ご協力。ありがとうございます。

お問い合わせ先
平成 29 年度スポーツ庁委託事業「学校における子どもの体力向上取組対策プロジェクト」
中学校、高等学校教員向け等の女性特有の健康課題に関する普及・啓発事業事務局
〒104-6845 東京都中央区豊洲 1-4-8 豊洲ワイトビル 803
TEL: 03-6538-6904 FAX: 03-6538-4364

IV. 調査結果

トライアル1（教員・生徒対象勉強会）

本調査の生徒アンケートにおいても前年度調査と同等の約80%の女子生徒が何等かの月経に関する症状で勉強・運動に影響があると回答している。女子生徒が相談する相手としては50%以上が保護者であり、学校ではほとんど相談しない環境にあることが示唆されたが、勉強会実施後のアンケートにおいては養護教諭への相談が多少増加していた。勉強会を受講した生徒は知識として病気・治癒についての認識は統計的に有意差が出たため、知識向上については有効であると言えるであろう。また、2回目アンケートまでの調査期間が短かったために相談や受診といった行動変容までは変化が見られなかったため、調査時期を改めて調査することも必要であるといった課題があがった。

教員の調査においては回答数が少なく、また勉強会開催時には生徒と教員が同時受講であったため、生徒の受講態度など指導をしながら講師の講和を聴くといった状況で十分に集中して受講ができたとは言えなかった背景があった。そのため十分な有意差検定ができるほどの結果には至らなかった。しかし、勉強会受講後で知識の変化には多少の変化が期待できるため、教員のみを対象とした研修など既存の機会を利用した勉強方法が必要であろう。

報 告



平成29年度 スポーツ庁委託事業
「子どもの体力向上課題対策プロジェクト」
中学校、高等学校教員向け等の
女性特有の健康課題に関する普及・啓発
思春期女子・教員の現状調査

トライアル1(生徒・教師)

2017年12月23日

トライアル1 調査背景

調査対象： 調布市立第六中学校、調布市立第五中学校※
東京都立葛飾野高等学校、栃木県立那須拓陽高校※

調査協力： 全国養護教諭連絡協議会
田代委員、高野委員

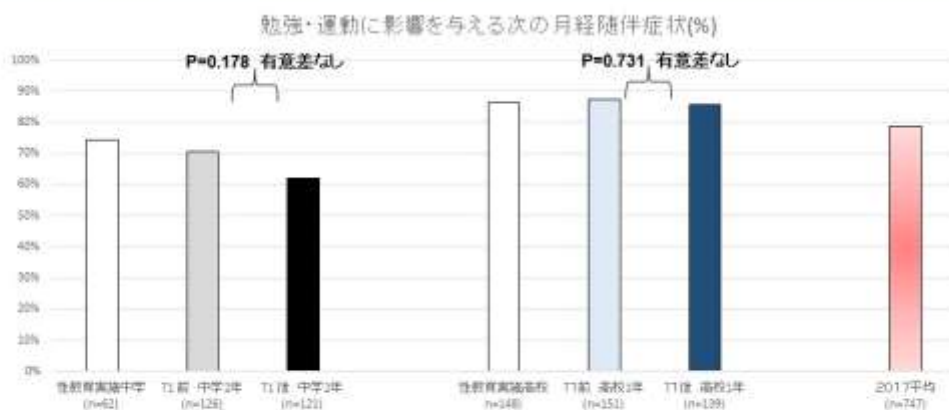
実施日： 2017年8月1日～11月15日

* 比較調査(1回のみ)

	1回目(人)	2回目(人)	比較調査(人)
中学生(2年)	127	127	62
高校生(1年)	152	152	148
教師 中学	13	12	-
教師 高校	7	7	-

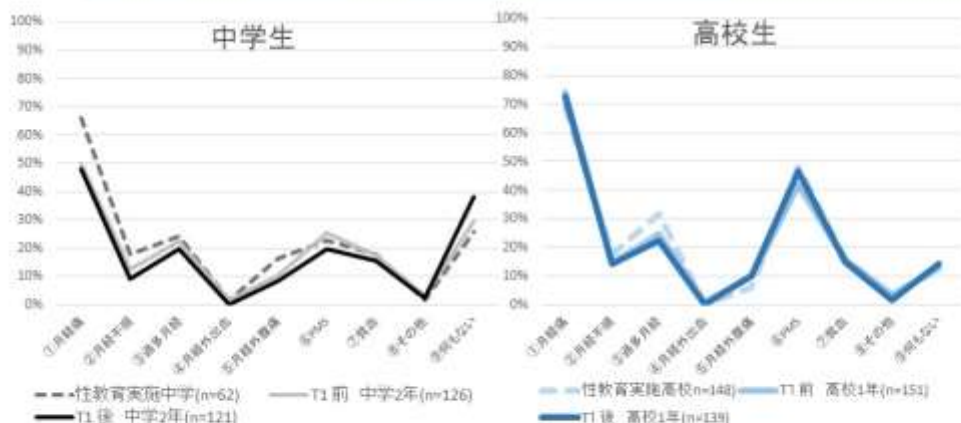
中高生女子の勉強・運動に与える症状

2. 勉強・運動に影響を与える次の症状はありますか。当てはまる番号全部に○をつけてください。
① 生理痛 ② 生理不順 ③ 生理の量が多い ④ 生理以外の出血 ⑤ 生理以外の腹痛
⑥ 生理前の症状(気分が落ち込む、イライラ、乳房の痛み、むくみ など)
⑦ 貧血 ⑧ その他 ⑨ 何もない、またはまだ生理がない



中高生女子の勉強・運動に与える症状

2. 勉強・運動に影響を与える次の症状はありますか。当てはまる番号全部に○をつけてください。
 ① 生理痛 ② 生理不順 ③ 生理の量が多い ④ 生理以外の出血 ⑤ 生理以外の腹痛
 ⑥ 生理前の症状(気分が落ち込む、イライラ、乳房の痛み、むくみ など)
 ⑦ 貧血 ⑧ その他 ⑨ 何もなし。またはまだ生理がない



全ての項目で有意差なし

	中学 前後	高校 前後
1	0.799	0.791
2	0.418	1.0
3	0.755	0.680
4	0.498	1.0
5	0.664	1.0
6	0.362	0.409
7	0.735	0.873
8	1.0	0.450
9	0.178	0.731

4

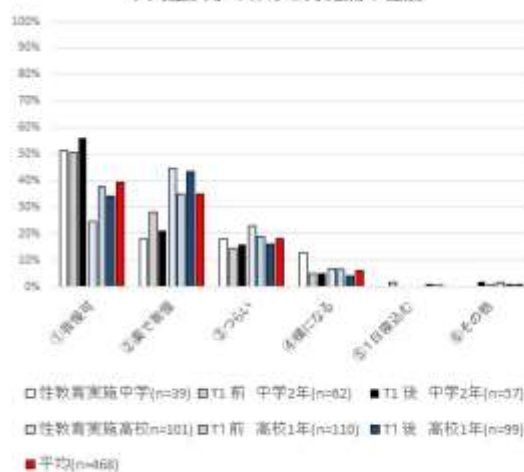
中高生女子の月経痛の程度

6. 質問(2)で1に○を付けた人にお聞きます。生理痛の程度はどれくらいですか。1つだけ○をつけてください
 ① 我慢できる ② 薬を飲めば我慢できる ③ 勉強・運動(体育の授業)をするのがつらい・集中できない
 ④ 横になって休憩が必要 ⑤ 1日以上寝込む ⑥ その他

中高生女子における月経痛の程度



中高生女子における月経痛の程度



5

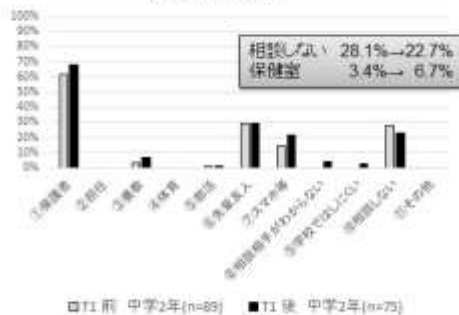
中高生女子の月経関連疾患の相談相手

3. 誰に相談したり、調べたりしますか？あるいはしようと思っていますか？

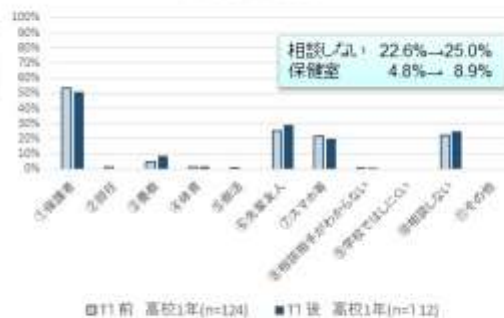
当てはまる番号全部に○をつけてください。

- ①保護者に相談する ②担任の先生に相談する ③保健室の先生に相談する
④体育の先生に相談する ⑤部活の先生に相談する ⑥先輩や友達に相談する
⑦スマートフォン/パソコンで調べる ⑧誰に相談していいかわからない
⑨学校では相談しにくい ⑩誰にも相談しない ⑪その他

中学生 相談相手の変化
勉強会前後比較



高校生 相談相手の変化
勉強会前後比較



全ての項目で有意差なし

	中学 前後	高校 前後
1	0.512	0.794
2	1.0	0.499
3	0.472	0.300
4	1.0	1.0
5	1.0	1.0
6	1.0	0.466
7	0.309	0.749
8	0.095	1.0
9	0.210	1.0
10	0.474	0.769
11	1.0	1.0

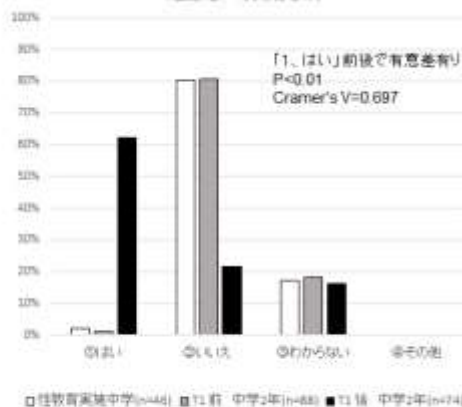
6

中高生女子の病気認識変化

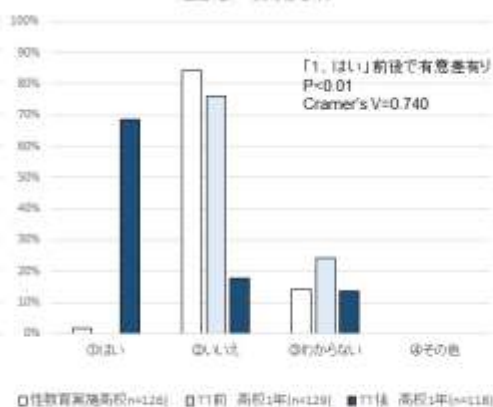
4. その症状は病気だと思いますか？ 1つだけ○をつけてください。

- 1.はい 2.いいえ 3.わからない 4.その他

中学生 病気としての認識
勉強会 前後比較



高校生 病気としての認識
勉強会 前後比較

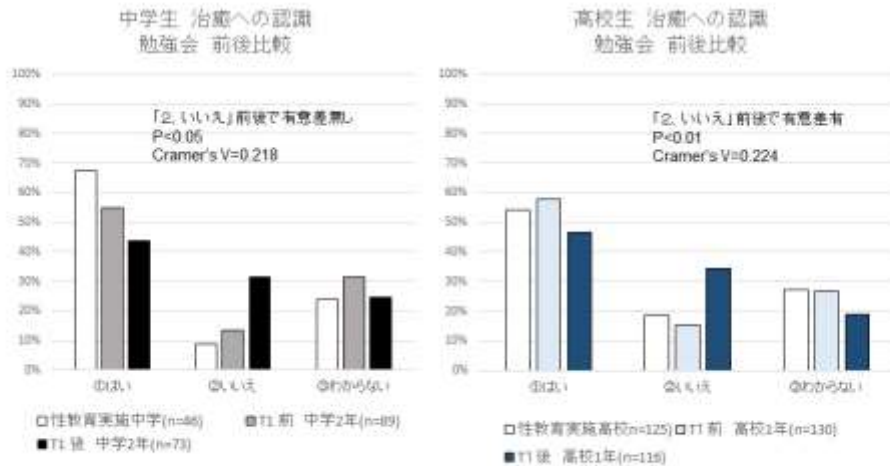


7

中高生女子の治癒への認識

(5) 質問(2)で9以外に○を付けた人にお聞きます。その症状は「自然によくなる」と思いますか？
1つだけ○をつけてください。

1.はい 2.いいえ 3.わからない



8

トライアル1 中高生女子調査まとめ

考察

- 今回の調査では、約80%の思春期女子が何らかの月経随伴症状で勉強・運動に支障がある。
- 月経随伴症状では中学高校間に大きな差はなく、月経痛>月経前症候群>月経過多である。
- 中学生の方が無症状の割合が多い傾向にある。
- 月経痛では、比較調査も含め25%以上が「つらくて勉強・運動ができない以上の支障をきたしている」。
- 月経随伴症状に関する相談相手は50%以上が保護者であり、学校ではほとんど相談できない環境にあることが示唆された。
- 勉強会後では、養護教諭への相談が少しだけ増加している。
- 月経随伴症状を疾病とする認識は勉強会後に優位に増加した。
- 上記2項目において、比較調査学校はトライアル実施対象校の勉強会前の状況と変わらない。

まとめ

- 学校における勉強会実施の意義が示された。
- 学校において養護教諭への導線をいか整備するかが課題であることが示された。
- 知識と行動の調査については更なるトライアル実施の必要性が示された。

9

教師 回答者背景

有効回答数	学校長	保健体育 部活動	養護教諭	一般教諭	備考
中学	0	3	1	9	
高校	0	5	0	2	
合計	0	8	1	11	

性 別	男性	女性	計	備考
中学	0	13	13	
高校	4	3	7	
合計	4	16	20	

年齢分布	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計
中学	2	4	2	3	1	0	1	13
高校	1	1	0	2	0	0	3	7

思春期女子の月経随伴症状について

(2) 月経随伴症状でどれくらい的女子生徒が勉強及び運動へ障害があると訴えているかご存知ですか、1つだけ○をつけてください。

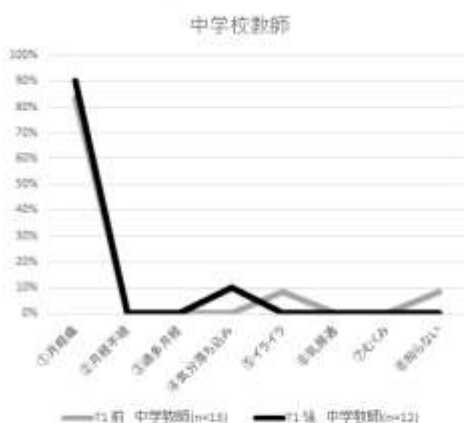
1.約40% 2.約60% 3.約80% 4.知らない



思春期女子の月経随伴症状について

(3) 月経随伴症状のうち最も多くの女子生徒が勉強・運動に影響があると訴えている症状はどれだと思いますか、1つだけ○をつけてください。

1.月経痛 2.月経不順 3.過多月経 4.月経前の気分の落ち込み
5.イライラ 6.乳房の痛み 7.むくみ 8.知らない



全ての項目で有意差なし

	中学 前後	高校 前後
1	1.0	0.680
2	1.0	1.0
3	1.0	1.0
4	1.0	0.470
5	1.0	1.0
6	1.0	1.0
7	1.0	1.0
8	1.0	1.0

12

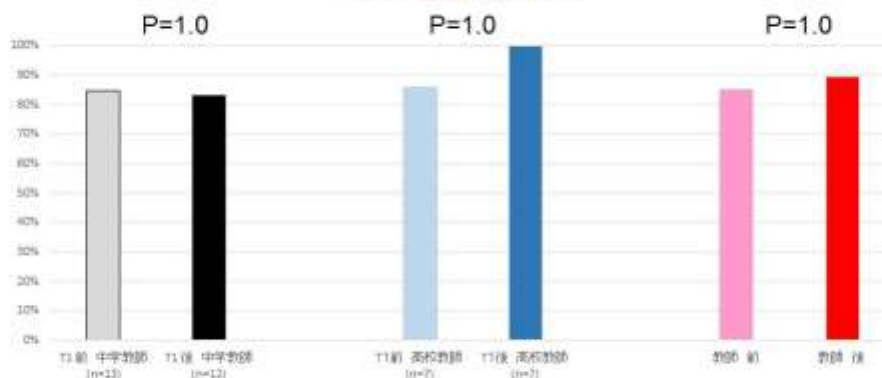
思春期女子の月経痛による痛みの期間

正常な月経周期において痛みがあるのは月経開始からおよそ何日間であるかご存知ですか、1つだけ○をつけてください。

1.1日 2.2~3日 3.4日以上 4.知らない

2-3日と回答した教師数の変化(%)

全ての前後間で有意差なし



13

思春期女子の無月経と骨密度

女子生徒の無月経を放置すると骨密度に悪影響があることをご存知ですか、1つだけ○をつけてください。

1.知っている

2.知らない

「2.知っている」と回答した教師数の変化(%)



月経随伴症状への認識

月経随伴症状は病気だと思いますか、1つだけ○をつけてください。

1.何かの病気が潜んでいる可能性がある

2.病気ではない

3.わからない

「1.何かの病気が潜んでいる可能性がある」と回答した教師数の変化(率)



月経随伴症状の治療への認識

月経随伴症状は治ると思いますか、1つだけ○をつけてください。

1.病院で治療を受けると良くなる 2.病院に行く必要はない 3.わからない

「1.病院で治療を受けるとよくなる」
と回答した教師数の変化(%)



思春期女子の月経随伴症状相談相手

月経随伴症状について女子生徒は誰に最も相談していると思いますか、1つだけ○をつけてください。

1.保護者 2.担任の先生 3.養護教諭 4.保健体育の先生 5.部活の先生
6.先輩や友達 7.誰にも相談しない 8.その他()



全ての項目で有意差なし

	中学 前後	高校 前後
1	1.0	1.0
2	1.0	1.0
3	1.0	1.0
4	1.0	1.0
5	1.0	1.0
6	1.0	1.0
7	0.48 †	1.0
8	1.0	1.0

月経随伴症状への気づき

女子生徒の月経随伴症状のサインに気づいていますか、1つだけ○をつけてください。

1.気づいている 2.気づかない

女子生徒の月経随伴症状を
「1、気づいている」と回答した教師数変化(率)

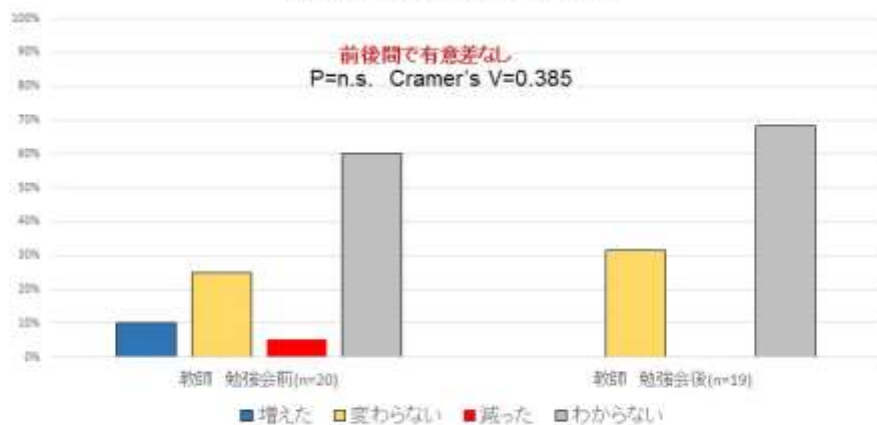


女子生徒の月経随伴症状に関する相談数変化

月経随伴症状で相談に来る生徒は増えましたか、1つだけ○をつけてください。

1.増えた 2.変わらない 3.減った 4.わからない

勉強会前後の相談女生徒変化

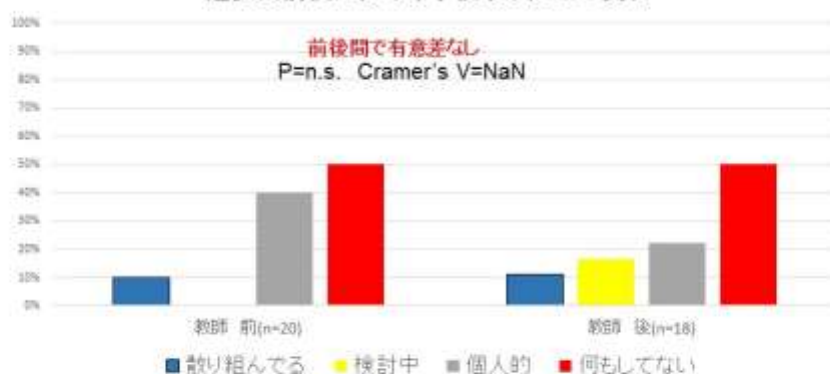


思春期女子の月経随伴症状と学校対応

月経随伴症状等に関して学校で何か取り組んでいますか。1つだけ○をつけてください。

1. 学校ですでに取り組んでいる 2. 学校での取り組みを検討中
3. 学校では取り組んでいないが個人的に声かけをしている 4. 何もしていない

勉強会前後における学校取り組みの変化



トライアル1 教師調査まとめ

考察

- 生徒と共に教師が勉強会に参加することによりすべての項目において認識が若干増加した。
- 約80%の生徒が月経随伴症状により勉強・運動に支障があることは認知していない。これは勉強会後にも大きく変化はしていない。
- 思春期女子が月経痛により勉強・運動に支障があることは認知しているが、月経前症候群・月経過多で生徒が困っていることはあまり認知されていない。
- 月経前症候群では、中学と高校の教師間で認知に差があるが勉強会前後で差はない。
- 月経随伴症状に関する相談相手と思われる1位は保護者だが、特に高校では多くの生徒が養護教諭に相談していると思い込んでいる。
- 月経随伴症状のサインには約40%の教師が気付いていると回答したが、高校において勉強会後に減少している。これは、多様な症状があることを学んだためと推察される。また、一部の生徒の身に気づいているだけで約80%の生徒が支障をきたしている認知はない。
- 調査間隔が短かったため相談件数は勉強会前後で変化はない。
- 月経随伴症状に対する学校としての対策は勉強会後に検討を始めている傾向があるが差はない。

まとめ

- 教師の認識増加は生徒ほどではなく、教師の身に集合研修の効果検討が課題である。
- 教師への勉強会をとおし学校としての対策検討につながることを示唆された。
- 教師の気づきをいかに増やすかの検討課題が示された。
- 画工における養護教諭への導線整備が課題であることが示された。

本調査の生徒アンケートにおいても前年度調査と同等の約 80%の女子生徒が何等かの月経に関する症状で勉強・運動に影響があると回答している。保健だよりを配布した後にも中学・高等学校ともに知識としての病気認識等の変化は見られなかった。日常的に学校で多くの配布物を受け取る生徒にとって、受動的な読み物を 1 回配布しただけでは認知・行動ともに変化は無いと言える。生徒の保健だより既読率は中学校で約 80%、高等学校で約 40%と中学生の方がよく読んでいることがわかったが、印象に残る内容で繰り返し情報伝達ができる方法を検討する必要がある、高等学校においては既読率を上げる方法の検討が課題であった。

■保健日より（学校から生徒を通じて保護者へ配布）

38

報 告

平成29年度 スポーツ庁委託事業
「子どもの体力向上課題対策プロジェクト」
中学校、高等学校教員向け等の
女性特有の健康課題に関する普及・啓発
思春期女子・保護者の現状調査

トライアル2(生徒・保護者)

2017年12月23日



Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

1

トライアル2調査背景

調査対象: 市原市立千種中学校、調布市立第五中学校※
埼玉県立庄和高等学校、栃木県立那須拓陽高校※
調査協力: 全国養護教諭連絡協議会
米元委員、田代委員
実施日: 2017年9月1日～11月15日
比較方法: 保健だより配布前後の知識・行動比較

* 比較用調査(1回のみ)

保健だより調査	1回目(人)	2回目(人)	比較調査 (人)
中学生(2年)	67	54	62
高校生(1年)	95	37	148
保護者 中学	67	49	-
保護者 高校	95	51	-



Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

2

保健だより既読率

(O) 保健だより(特別号)を読みましたか。1つだけ○をつけてください。

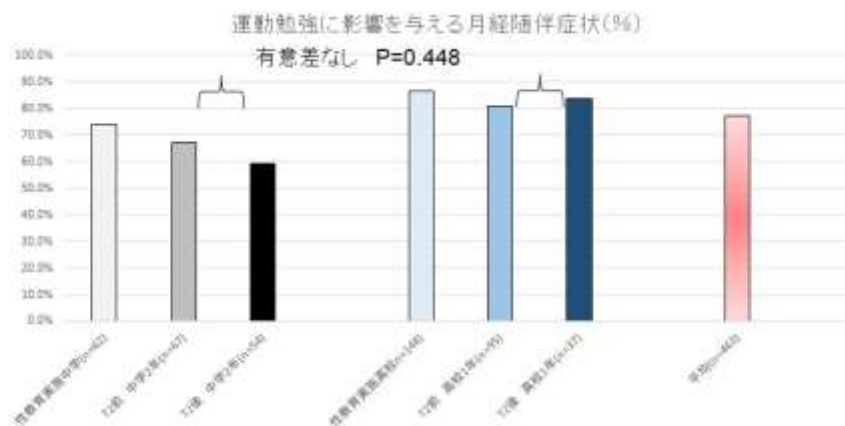
- 1.読んで、保護者と話をした。
- 2.読んだが、保護者と話はしていない。
- 3.読んでいない。→調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

保健だより調査	1(人)	2(人)	3(人) 他無回答(人)	既読率(%)
中学生(2年)	14	40	13	80.6
高校生(1年)	8	29	58	38.9
保護者 中学	16	33	22	69.0
保護者 高校	22	29	40	56.0

中高生女子の勉強・運動に与える症状

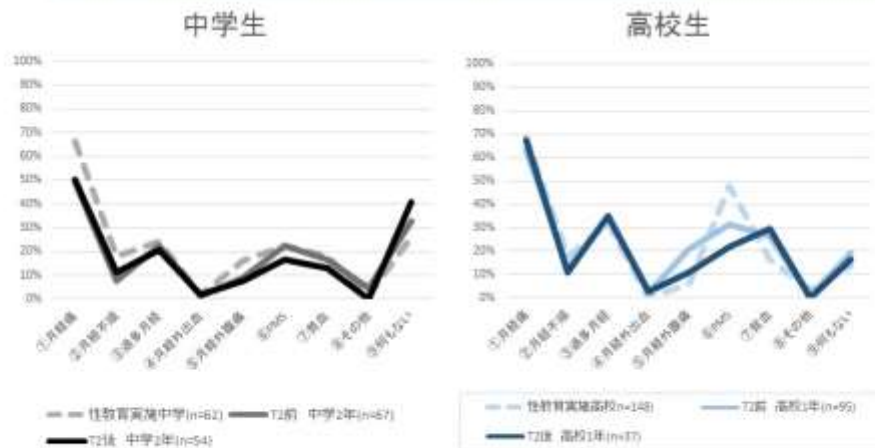
2. 勉強・運動に影響を与える次の症状はありますか。当てはまる番号全部に○をつけてください。

- ① 生理痛 ② 生理不順 ③ 生理の量が多い ④ 生理以外の出血 ⑤ 生理以外の腹痛
- ⑥ 生理前の症状(気分が落ち込む、イライラ、乳房の痛み、むくみ など)
- ⑦ 貧血 ⑧ その他 ⑨ 何もない、またはまだ生理がない



中高生女子の勉強・運動に与える症状

2. 勉強・運動に影響を与える次の症状はありますか。当てはまる番号全部に○をつけてください。
 ① 生理痛 ② 生理不順 ③ 生理の量が多い ④ 生理以外の出血 ⑤ 生理以外の腹痛
 ⑥ 生理前の症状(気分が落ち込む、イライラ、乳房の痛み、むくみ など)
 ⑦ 貧血 ⑧ その他 ⑨ 何もない、またはまだ生理がない



全ての項目において有意差無し

	中学 前後	高校 前後
1	1	0.690
2	0.537	1.0
3	0.827	1.0
4	1.0	1.0
5	1.0	0.214
6	0.497	0.292
7	0.798	0.671
8	0.252	1.0
9	0.448	0.806

5

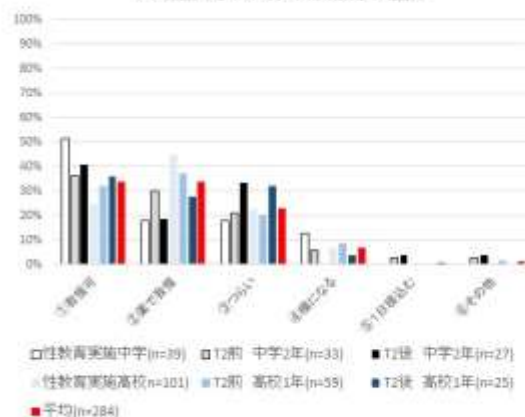
中高生女子の月経痛の程度

6. 質問(2)で1に○を付けた人にお聞きします。生理痛の程度はどれくらいですか。1つだけ○をつけてください
 ① 我慢できる ② 薬を飲めば我慢できる ③ 勉強・運動(体育の授業)をするのがつらい・集中できない
 ④ 横になって休憩が必要 ⑤ 1日以上寝込む ⑥ その他

中高生女子における月経痛の程度



中高生女子における月経痛の程度



6

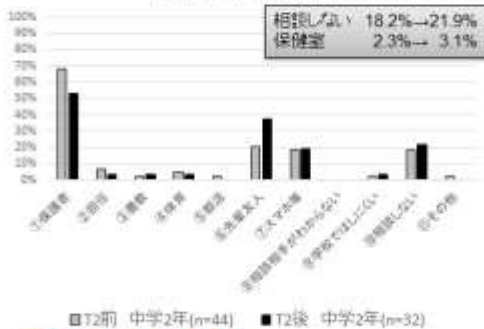
中高生女子の月経関連疾患の相談相手

3. 誰に相談したり、調べたりしますか？あるいはしようと思っていますか？

当てはまる番号全部に○をつけてください。

- ①保護者に相談する ②担任の先生に相談する ③保健室の先生に相談する
④体育の先生に相談する ⑤部活の先生に相談する ⑥先輩や友達に相談する
⑦スマートフォン/パソコンで調べる ⑧誰に相談していいかわからない
⑨学校では相談しにくい ⑩誰にも相談しない ⑪その他

中学生 相談相手の変化
勉強会前後比較



高校生 相談相手の変化
勉強会前後比較



全ての項目において有意差無し

	中学	高校
1	0.234	0.497
2	0.634	1.0
3	1.0	0.633
4	1.0	0.552
5	1.0	1.0
6	0.123	0.654
7	1.0	1.0
8	1.0	1.0
9	1.0	1.0
10	0.774	1.0
11	1.0	1.0

7

中高生女子の病気認識変化

4. その症状は病気だと思いますか？

1つだけ○をつけてください。

1.はい

2.いいえ

3.わからない

4.その他

中学生 病気としての認識
保健日より配布 前後比較



高校生 病気としての認識
保健日より配布 前後比較

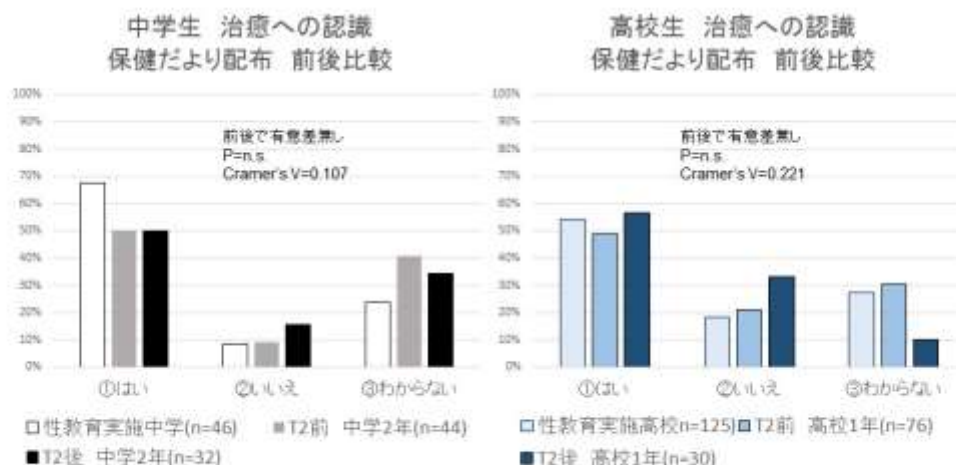


8

中高生女子の治療への認識

(5) 質問(2)で9以外に○を付けた人にお聞きします。その症状は「自然によくなる」と思いますか？
1つだけ○をつけてください。

1.はい 2.いいえ 3.わからない



Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

9

トライアル2 中高生女子調査まとめ

考察

- 保健だよりの既読率は中学高校各々約80%。約40%で高校生に比し中学生の既読率が高い。
- 80%の思春期女子が何らかの月経随伴症状で勉強・運動に支障がある。
- 月経随伴症状では中学高校間に大きな差はなく、月経痛>月経前症候群=月経過多である。
- 高校生の方が月経前症候群及び貧血状態が高い傾向にある。
- 中学生の方が無症状の割合が多い傾向にある。
- 月経痛では、比較調査も含め30%以上が「つらく勉強・運動ができない以上の支障をきたしている」。
- 月経随伴症状に関する相談相手は50%以上が保護者であり、学校ではほとんど相談できない環境にあることが示唆された。
- 保健だより配布後は、養護教諭への相談が少しだけ増加している。
- 月経随伴症状を疾病とする認識と治療による改善は保健だより配布前後でほとんど変化はなく病気持ちとしての認知は上がらない。
- 上記2項目において、比較調査学校はトライアル実施対象校の保健だより配布前の状況と変わらない。

まとめ

- 保健だよりの既読率を上げる検討が課題
- 受動的な読み物だけでは認知・行動変容は少ないと示唆された。
- 生徒向けにはシリーズで全国統一した資料を毎年同一学年に配布するなどの工夫が課題事項として考えられる。
- トライアル1と併せた検討が必要。



Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

10

トライアル2 保護者 回答者背景

性 別	男性	女性	不明	計	備考
中学	1	64	2	67	
高校	1	93	2	96	
合計	2	157		163	

年齢分布	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計
中学	1	21	35	2	1	0	7	67
高校	1	9	64	14	0	0	8	96
合計	2	30	99	16	1	0	15	163

保健だより既読率

保健だより(特別号)をお読みになりましたか、1つだけ○をつけてください。

- 1.読んで、子供と話をした。
- 2.読んだが、子供と話はしていない。
- 3.読んでいない。→調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

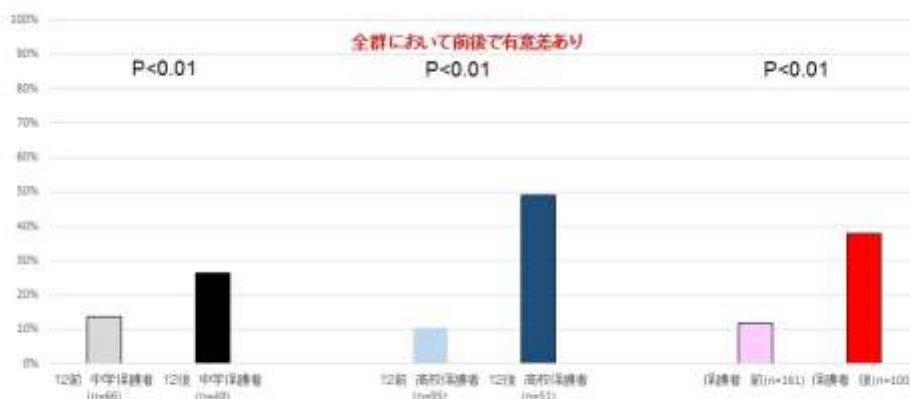
保健だより調査	1(人)	2(人)	3(人) 他無回答(人)	既読率(%)
保護者 中学	16	33	18	73.1
保護者 高校	22	29	45	53.1

思春期女子の月経随伴症状について

(2) 月経随伴症状でどれくらい的女子生徒が勉強及び運動へ障害があると訴えているかご存知ですか、1つだけ○をつけてください。

1.約40% 2.約60% 3.約80% 4.知らない

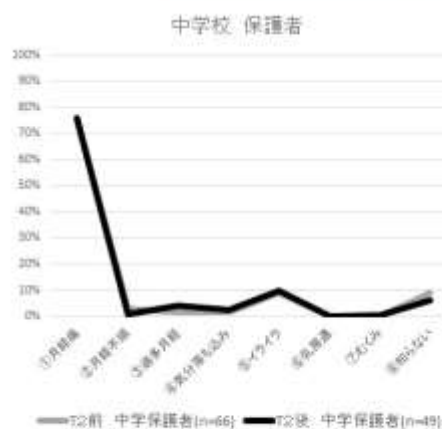
80%と回答した保護者数の保健だより配布前後の変化(率)



思春期女子の月経随伴症状について

(3) 月経随伴症状のうち最も多くの女子生徒が勉強・運動に影響があると訴えている症状はどれだと思いますか、1つだけ○をつけてください。

1.月経痛 2.月経不順 3.過多月経 4.月経前の気分の落ち込み
5.イライラ 6.乳房の痛み 7.むくみ 8.知らない



全ての項目において有意差無し

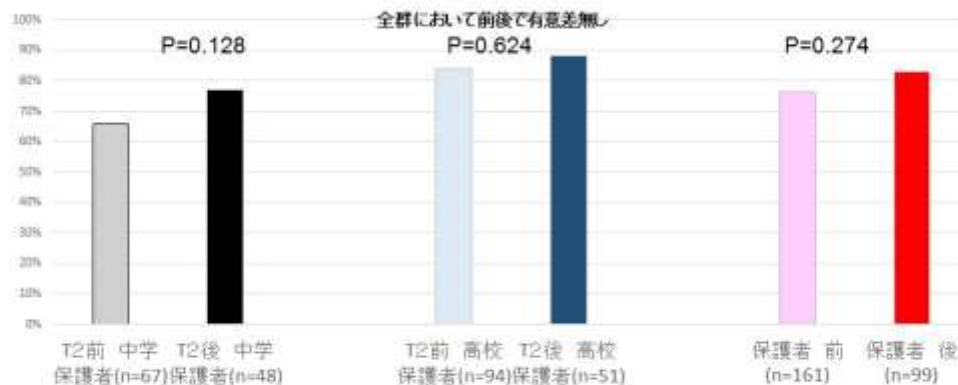
	中学前後	高校前後
1	1.0	1.0
2	1.0	1.0
3	1.0	1.0
4	1.0	1.0
5	1.0	1.0
6	1.0	1.0
7	1.0	1.0
8	1.0	0.710

思春期女子の月経痛による痛みの期間

正常な月経周期において痛みがあるのは月経開始からおよそ何日間であるかご存知ですか、1つだけ○をつけてください。

1.1日 2.2～3日 3.4日以上 4.知らない

2-3日と回答した保護者数の変化(%)

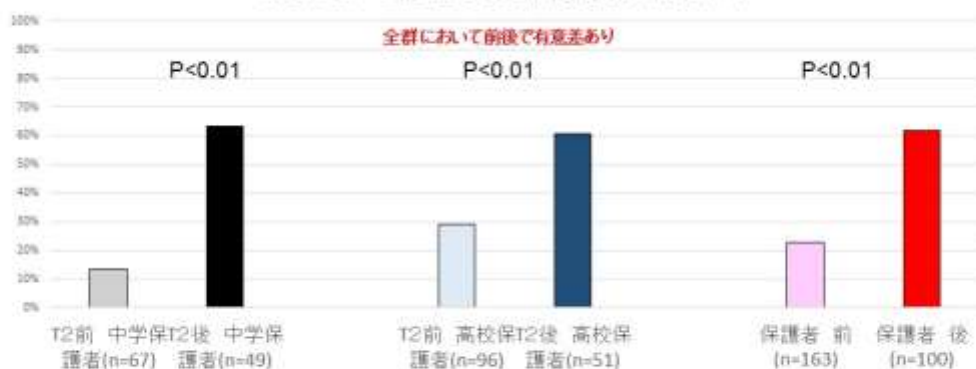


思春期女子の無月経と骨密度

女子生徒の無月経を放置すると骨密度に悪影響があることをご存知ですか、1つだけ○をつけてください。

1.知っている 2.知らない

「1.知っている」と回答した保護者数の変化(%)

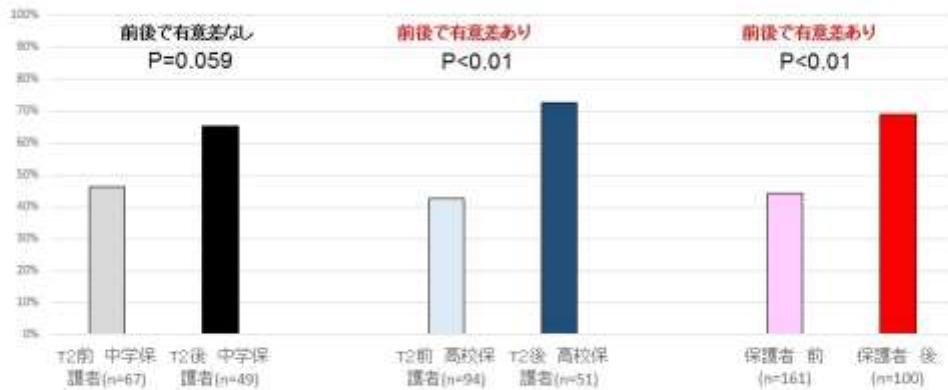


月経随伴症状への認識

月経随伴症状は病気だと思いますか、1つだけ○をつけてください。

1. 何かの病気が潜んでいる可能性がある 2. 病気ではない 3. わからない

「1, 何かの病気が潜んでいる可能性がある」と回答した保護者数の変化(率)

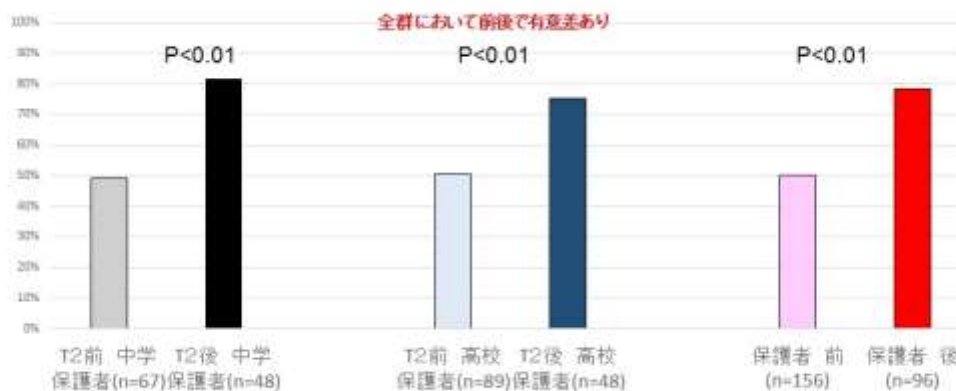


月経随伴症状の治療への認識

月経随伴症状は治ると思いますか、1つだけ○をつけてください。

1. 病院で治療を受けると良くなる 2. 病院に行く必要はない 3. わからない

「1, 病院で治療を受けるとよくなる」と回答した保護者数の変化(%)

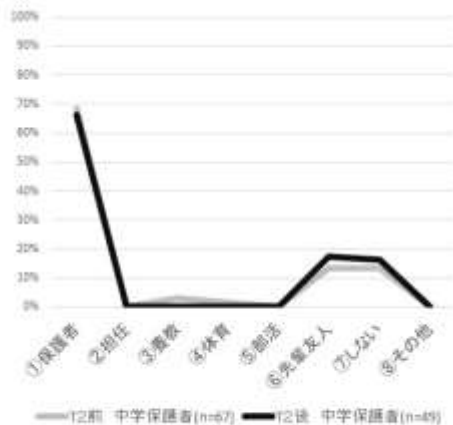


思春期女子の月経随伴症状相談相手

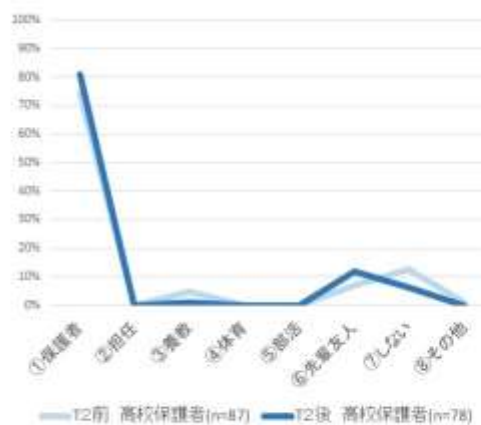
月経随伴症状についてお子様は誰に最も相談していると思いますが、1つだけ○をつけてください。

- 1.保護者 2.担任の先生 3.養護教諭 4.保健体育の先生 5.部活の先生
6.先輩や友達 7.誰にも相談しない 8.その他()

中学 保護者の回答変化(率)



高校 保護者の回答変化(率)



高校①に優位差有り

	中学前後	高校前後
1	0.842	0.01
2	1.0	1.0
3	1.0	0.371
4	1.0	1.0
5	1.0	1.0
6	0.605	1.0
7	0.605	0.052
8	1.0	1.0



Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

19

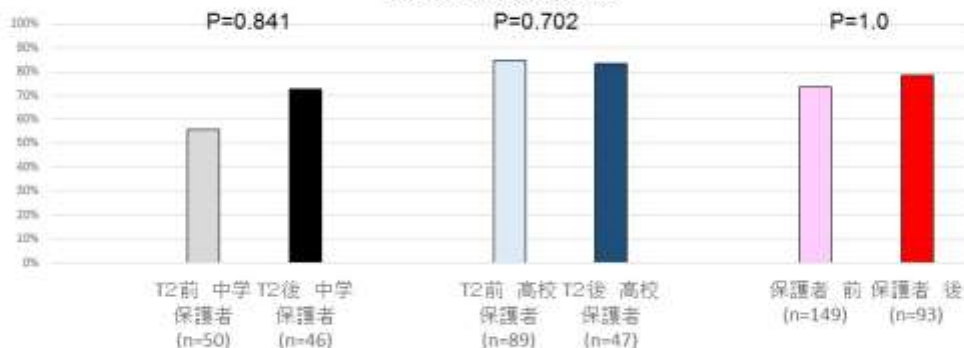
月経随伴症状への気づき

お子様の月経随伴症状のサインに気づいていますか、1つだけ○をつけてください。

- 1.気づいている 2.気づかない
3.月経随伴症状はないと思う 4.まだ月経はない

女子生徒の月経随伴症状を
「1、気づいている」と回答した保護者数変化(率)

全群において前後で有意差無し



Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

20

女子生徒の月経随伴症状に関する相談数変化

最近、月経随伴症状でお子様から相談されることは増えていきますか、1つだけ○をつけてください。

1. 増えた 2. 変わらない 3. 減った 4. わからない

保健だより配布前後の相談女生徒変化



女子生徒の月経随伴症状に関する相談数変化

最近、月経随伴症状でお子様から相談されることは増えていきますか、1つだけ○をつけてください。

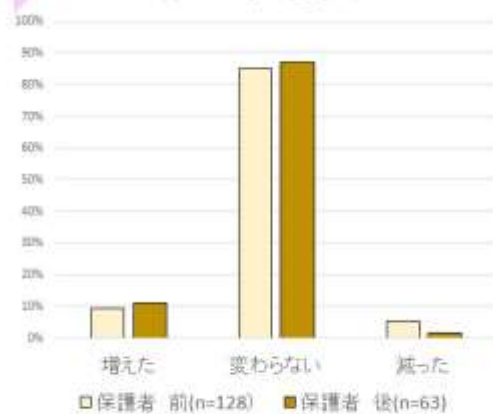
1. 増えた 2. 変わらない 3. 減った 4. わからない

保健だより配布前後の相談女生徒数
(わからないを除く)



軸反転

保健だより配布前後の相談女生徒数
(わからないを除く)



思春期女子の月経随伴症状と家庭での対応

月経随伴症状等に関してご自宅で何か対応していますが、1つだけ○をつけてください。

- 1.病院に連れていく
- 2.市販薬を飲むように言っている
- 3.声がけをしている
- 4.特にしていない



23

コホート2 保護者調査まとめ

考察

- 保健だよりの既読率は中学高校各々約73%、約53%であり高校生に比し中学生保護者の既読率が高い。
- 保健だよりの既読者は全ての知識項目において認識が増加した。
- 生徒が月経痛で悩んでいることは認識しているが、月経前症候群・月経過多で生徒が困っていることはあまり認知されていない。
- 月経随伴症状に関する相談相手と思われる1位は保護者自身であると同時に学校では養護教諭にさえも相談していないと認識は生徒の回答に近い。
- 月経随伴症状のサインには半数以上の保護者が気が付いている反面、保健だよりでは気づきへの増加は寄与していない。
- 調査間隔が短かったため相談件数、家庭での対応には保健だより配布前後で変化はない。

まとめ

- 保健だよりにある程度の効果があることが確認できたが、発行回数・内容などの検討が必要。
- 学校(保健室)での対応が可能なことも情報として発信する必要があると思われる。

24

報 告

平成29年度 スポーツ庁委託事業
「子どもの体力向上課題対策プロジェクト」
中学校、高等学校教員向け等の
女性特有の健康課題に関する普及・啓発
思春期女子・教員の現状調査

トライアル1および2の
認知・行動比較(生徒)

トライアル間 認知および行動比較調査背景

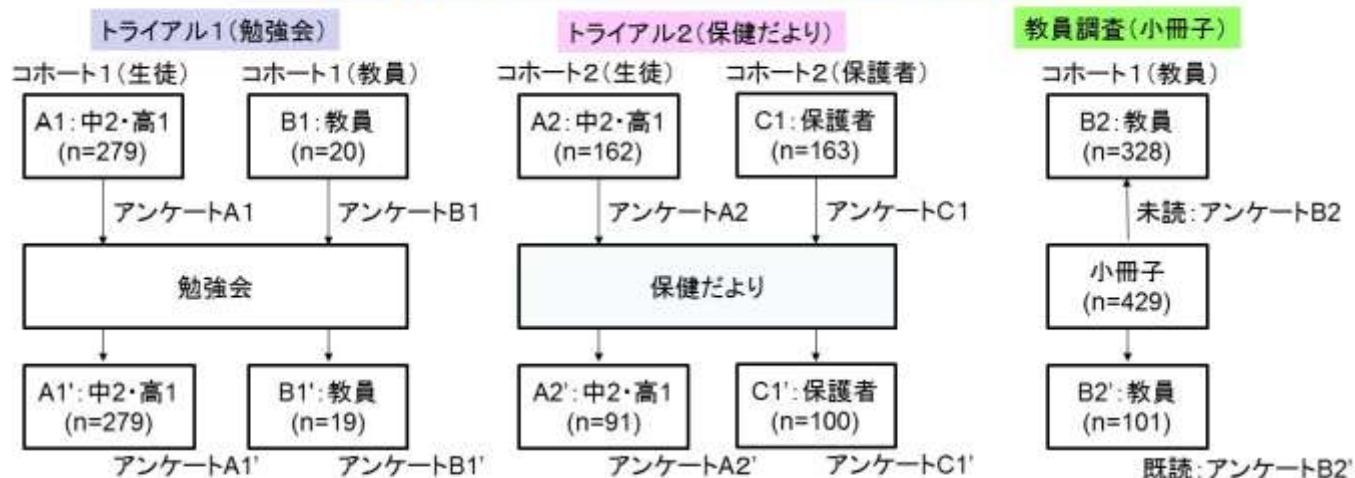
対象:生徒

トライアル1 学校における生徒・教師勉強会
調布市立第六中学校、東京都立葛飾野高等学校
トライアル2 保健だより配布による生徒・保護者調査
市原市立千種中学校、埼玉県立庄和高等学校
比較調査 性教育実施実績のある学校における生徒調査
調布市立第五中学校、栃木県立那須拓陽高校
2016年度実態調査
千葉県下 中学校、高等学校各1校

調査協力: 全国養護教諭連絡協議会、米元委員、田代委員、高野委員

	中学2年生(人)	高校1年生(人)
トライアル1	127	152
トライアル2	67	95
比較調査学校	62	148
2016年調査実施校	58	158
合計	314	553

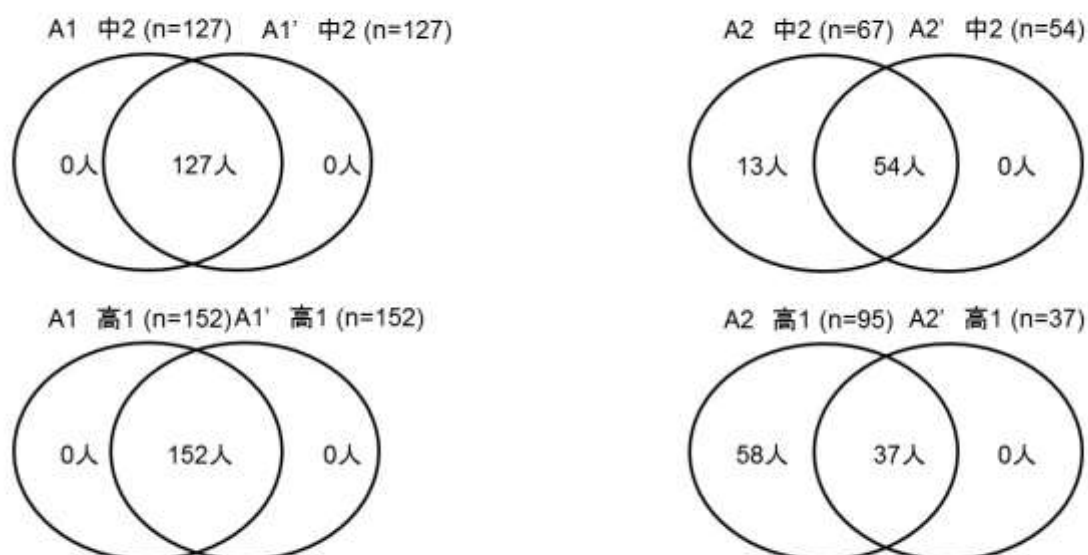
調査比較の全体像(教師・保護者含む)



生徒調査 * アンケートA1A1'A2A2'は同じ内容
 * 2016年生徒調査(A3)はアンケートAに近似した内容を1回のみ実施
 * 性教育実施実績学校生徒調査(A4)はアンケートA1を1回のみ実施

3

調査比較の回答者像(生徒)



A1,A1':調査票は1回目2回目ともに全員回収、ただし設問ごとに無効回答・未記入有
 A2,A2':調査票は1回目2回目ともに全員回収、保健だより未読は回答不要、回答未記入は対象外

4

中高生女子の勉強・運動に影響を与える症状 調査間(A1+A1',A2+A2',A3,A4)における有症状率の状況

2. 勉強・運動に影響を与える次の症状はありますか。当てはまる番号全部に○をつけてください。
① 生理痛 ② 生理不順 ③ 生理の量が多い ④ 生理以外の出血 ⑤ 生理以外の腹痛
⑥ 生理前の症状(気分が落ち込む、イライラ、乳房の痛み、むくみ など)
⑦ 貧血 ⑧ その他 ⑨ 何もない、またはまだ生理がない



中学(A3vsA4vsA1+A1'vsA2+A2')
全群間に有意差無し

高校(A3vsA4vsA1+A1'vsA2+A2')
全群間に有意差無し



Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

5

中高生女子の勉強・運動に与える症状 調査間(A1+A1',A2+A2',A3,A4)における各症状の状況

2. 勉強・運動に影響を与える次の症状はありますか。当てはまる番号全部に○をつけてください。
① 生理痛 ② 生理不順 ③ 生理の量が多い ④ 生理以外の出血 ⑤ 生理以外の腹痛
⑥ 生理前の症状(気分が落ち込む、イライラ、乳房の痛み、むくみ など)
⑦ 貧血 ⑧ その他 ⑨ 何もない、またはまだ生理がない



Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

6

中高生女子の月経痛の程度

調査間(A1+A1',A2+A2',A3,A4)における月経痛程度の状況

6. 質問(2)で1に○を付けた人にお聞きします。生理痛の程度はどれくらいですか。1つだけ○をつけてください
①我慢できる ②薬を飲めば我慢できる ③勉強・運動(体育の授業)をするのがつらい・集中できない
④横になって休憩が必要 ⑤1日以上寝込む ⑥その他



A1+A1'vsA2;A2'

	中学	高校
1	0.081	0.298
2	1.0	0.198
3	0.072	0.525
4	0.720	0.788
5	0.261	1.0
6	0.261	1.0

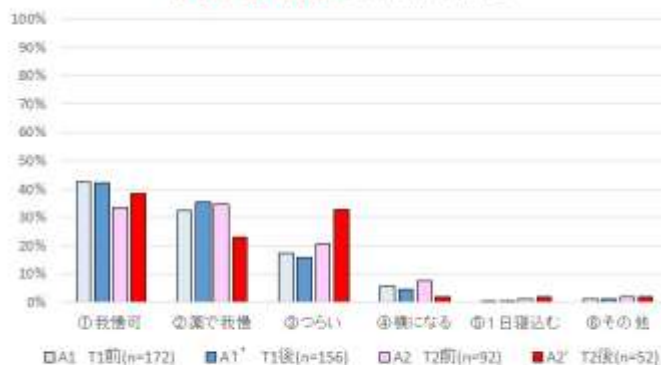
7

中高生女子の月経痛の程度

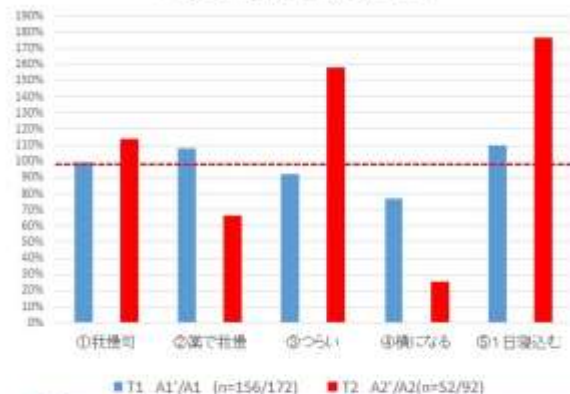
A1,A1',A2,A2'間におけるアクション後の月経痛程度変化

6. 質問(2)で1に○を付けた人にお聞きします。生理痛の程度はどれくらいですか。1つだけ○をつけてください
①我慢できる ②薬を飲めば我慢できる ③勉強・運動(体育の授業)をするのがつらい・集中できない
④横になって休憩が必要 ⑤1日以上寝込む ⑥その他

トライアル1(A1,A1')&トライアル2(A2,A2')
アクション前後の月経痛の程度



参考 トライアル1(A1,A1'), トライアル2(A2,A2')
アクション後の月経痛程度変化率



③つらい 中学A2 7/33人→ A2':9/27人
高校A2 12/59人→A2':8/25人
⑤寝込む 中学A2 1/33人→A2':1/27人
原因:分母、とバイアス(痛い生徒の方が興味を持って保健だよりを見たと思われる)

8

中高生女子の月経関連疾患の相談相手 A1,A1',A2,A2'におけるアクション前後の回答

3. 誰に相談したり、調べたりしますか？あるいはしようと思っていますか？

当てはまる番号全部に○をつけてください。

- ①保護者に相談する ②担任の先生に相談する ③保健室の先生に相談する
④体育の先生に相談する ⑤部活の先生に相談する ⑥先輩や友達に相談する
⑦スマートフォン/パソコンで調べる ⑧誰に相談していいかわからない
⑨学校では相談しにくい ⑩誰にも相談しない ⑪その他

有意差なし

	A1vsA1'	A2vsA2'
1	0.262	0.139
2	1.0	0.659
3	0.496	0.697
4	1.0	0.667
5	1.0	1.0
6	0.738	0.612
7	0.324	1.0
8	0.190	1.0
9	0.218	1.0
10	0.907	0.832
11	1.0	1.0



中高生女子の月経関連疾患の相談相手 A1,A1',A2,A2'におけるアクション後の回答変化

3. 誰に相談したり、調べたりしますか？あるいはしようと思っていますか？

当てはまる番号全部に○をつけてください。

- ①保護者に相談する ②担任の先生に相談する ③保健室の先生に相談する
④体育の先生に相談する ⑤部活の先生に相談する ⑥先輩や友達に相談する
⑦スマートフォン/パソコンで調べる ⑧誰に相談していいかわからない
⑨学校では相談しにくい ⑩誰にも相談しない ⑪その他

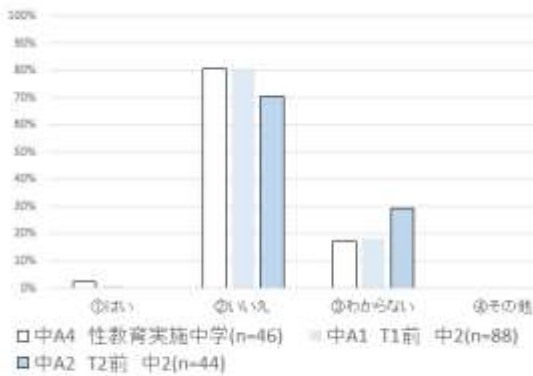


* A1/A1'②⑨⑪、B17/B1⑤⑧⑪は前後のいずれかが0%のため算出不可

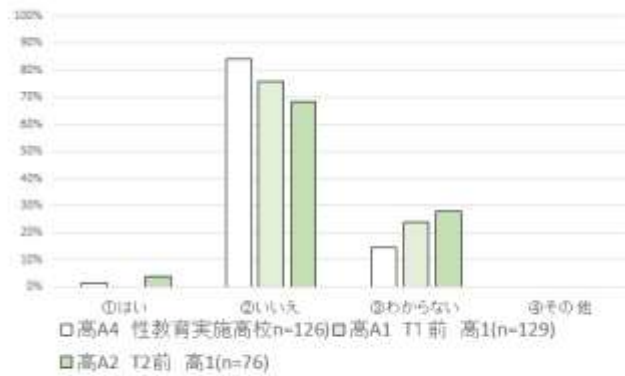
中高生女子の病気認識変化 A1,A2,A4におけるアクション前の回答状況

4. その症状は病気だと思いますか？ 1つだけ○をつけてください。
1.はい 2.いいえ 3.わからない 4.その他

1、「はい」と回答した中学2年生
アクション前



1、「はい」と回答した高校1年生
アクション前



中高生女子の病気認識変化 A1,A1',A2,A2'におけるアクション前後の回答変化

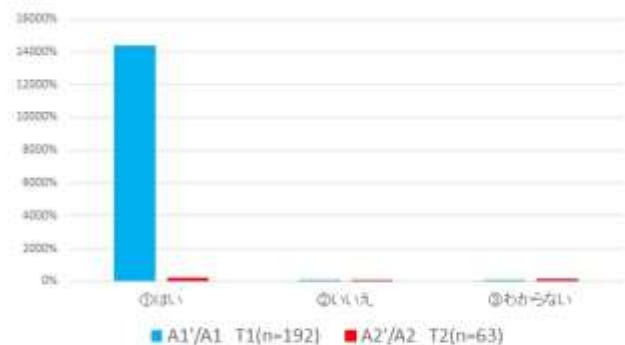
4. その症状は病気だと思いますか？ 1つだけ○をつけてください。
1.はい 2.いいえ 3.わからない 4.その他

トライアル1 (A1,A1')&トライアル2 (A2,A2')
アクション前後の「はい」と回答した生徒変化



	p	Cramer's V
A1vsA1'	<0.01	0.721
A2vsA2'	n.s.	0.130

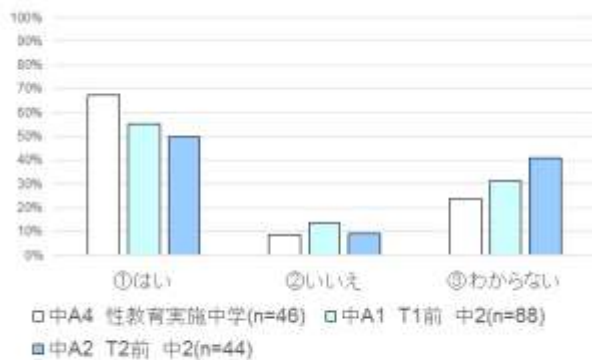
参考 トライアル1 (A1,A1')&トライアル2 (A2,A2')
アクション後の「はい」と回答した生徒数変化率



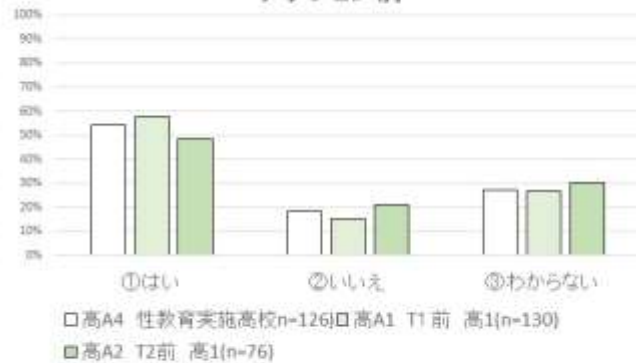
中高生女子の治癒への認識 A1,A2,A4におけるアクション前の回答状況

(5) 質問(2)で9以外に○を付けた人にお聞きします。その症状は「自然によくなる」と思いますか？
1つだけ○をつけてください。
1.はい 2.いいえ 3.わからない

「2. いいえ」と回答した中学2年生
アクション前



「2. いいえ」と回答した高校1年生
アクション前



*2016年調査(A3)
には該当質問なし

13

中高生女子の治癒への認識 A1,A1',A2,A2'におけるアクション後の回答変化

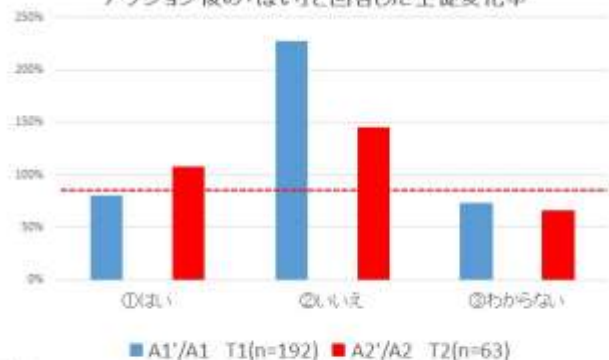
(5) 質問(2)で9以外に○を付けた人にお聞きします。その症状は「自然によくなる」と思いますか？
1つだけ○をつけてください。
1.はい 2.いいえ 3.わからない

トライアル1 (A1,A1') & トライアル2 (A2,A2')
アクション前後の「いいえ」と回答した生徒変化



A1vsA1'(T1前後)で有意差あり

参考 トライアル1 (A1,A1') & トライアル2 (A2,A2')
アクション後の「はい」と回答した生徒変化率



	p	Cramer'sV
A1vsA1'	< 0.01	0.222
A2vsA2'	n.s.	0.132

*2016年調査(A3)には該当質問なし

14

トライアル間 生徒認知行動比較まとめ

考察

- 今回の調査では、約80%の思春期女子が何らかの月経随伴症状で勉強・運動に支障があり、前年調査と大きな差がないことが示された。
- 月経随伴症状では中学高校間に大きな差はなく、月経痛＞月経前症候群＞月経過多である。
- 中学生の方が無症状の割合が多い傾向にある。
- 月経痛の対応では高校生になるほど薬を使用し我慢する傾向が大きい。
- 月経随伴症状に関する相談相手は50%以上が保護者であり、学校ではほとんど相談できない環境にあることが示唆された。
- 勉強会後では、養護教諭への相談が少しだけ増加している。
- 勉強会への参加は保健だよりに比べ疾患認知の変化が大きい。
- 認知と行動にはトライアル間・トライアル前後で相関がない。

まとめ

- 学校における勉強会実施の意義が示された。
- 学校において養護教諭への導線をいか整備するかが課題であることが示された。
- 知識と行動の調査については更なるトライアル実施の必要性が示された。
- 生徒向けの定期的な情報発信ツール作成及び授業用の副読本作成配布の検討が必要である。

トライアル1・2比較（教員・保護者）

報告

平成29年度 スポーツ庁委託事業
「子どもの体力向上課題対策プロジェクト」
中学校、高等学校教員向け等の
女性特有の健康課題に関する普及・啓発
思春期女子・教員の現状調査

トライアル1および2の
認知・行動比較(教師・保護者)

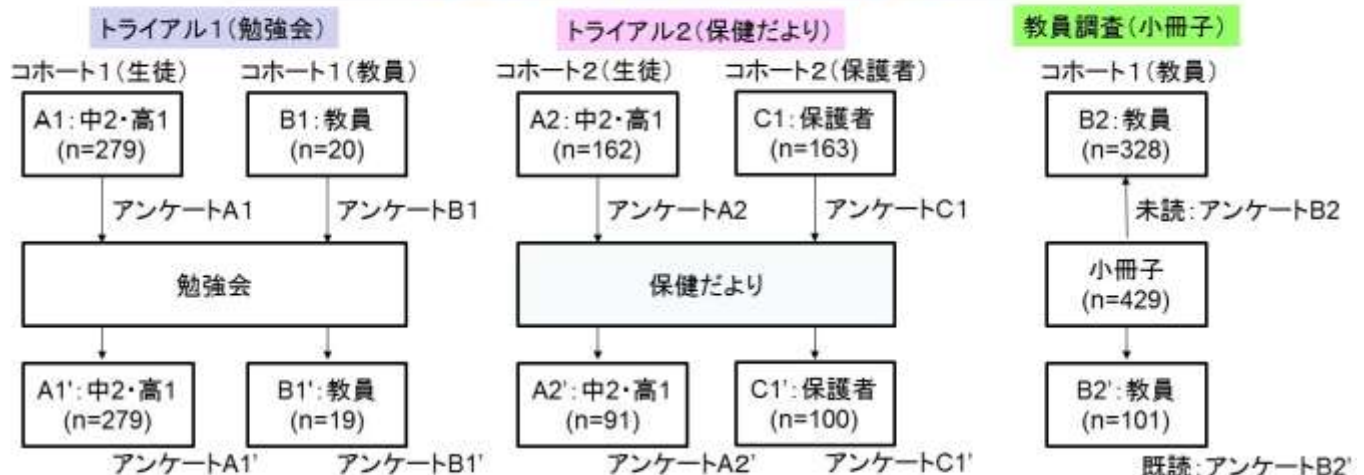
トライアル間 認知および行動比較調査背景

対象: 教師(保護者)

トライアル1 学校における生徒・教師勉強会:
調布市立第六中学校、東京都立葛飾野高等学校
2017年度教師実態調査:
全国 校長・保健体育教師・養護教諭等
参考: トライアル2
保健だより配布による生徒・保護者調査
市原市立千種中学校、埼玉県立庄和高等学校
調査協力: 日本中学校体育連盟、全国高等学校体育連盟
全国養護教諭連絡協議会
米元委員、田代委員、高野委員

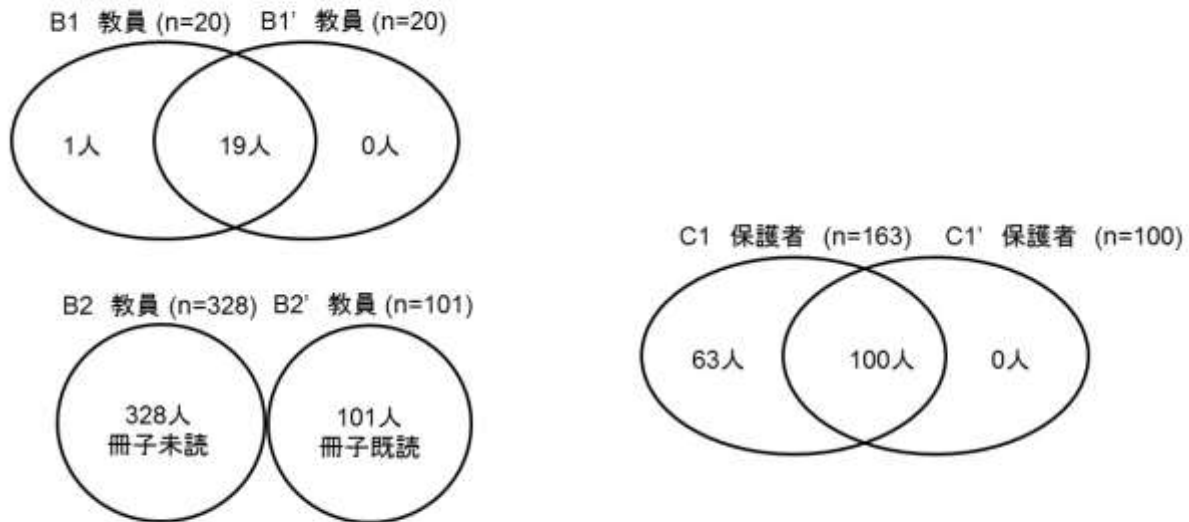
	教師(人)	保護者(人)
トライアル1	20	
2017年度教師実態調査	429	
合計	449	
参考(トライアル2 保護者)		163

調査比較の全体像(生徒含む)



教師調査 * アンケートB1B1'は同じ内容
* アンケートB2はアンケートB1B1'に近似した内容で1回のみ実施
冊子未読をB2, 既読をB2'とした。
保護者調査 * アンケートC1C1'は同じ内容で、アンケートB1B1'と近似した内容

調査比較の回答者像(教師・保護者)



C1,C2':調査票は1回目2回目ともに全員回収、保健だより未読は回答不要、回答未記入は対象外

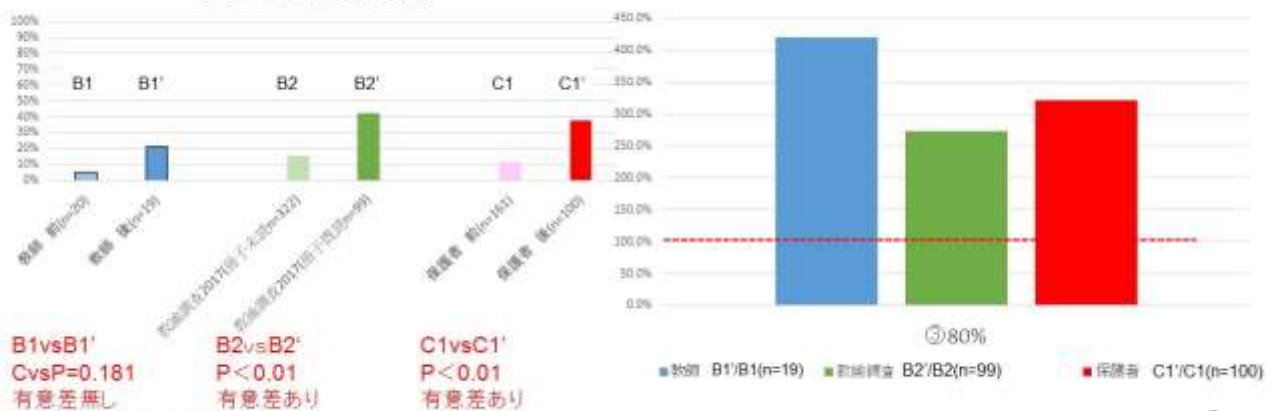
思春期女子の月経随伴症状について B1,B1',B2,B2',C1,C1'におけるアクション前後の回答変化

(2) 月経随伴症状でどれくらい的女子生徒が勉強及び運動へ障害があると訴えているかご存知ですか、1つだけ○をつけてください。

1.約40% 2.約60% 3.約80% 4.知らない

80%と回答した
アクション前後の変化

参考 80%と回答者のしたアクション後の変化率



思春期女子の月経随伴症状について B1,B1',B2,B2',C1,C1'におけるアクション前後の回答変化

(3) 月経随伴症状のうち最も多くの女子生徒が勉強・運動に影響があると訴えている症状はどれだと思いますか、1つだけ○をつけてくださいの。

1.月経痛 2.月経不順 3.過多月経 4.月経前の気分の落ち込み
5.イライラ 6.乳房の痛み 7.むくみ 8.知らない

黄色は前後で有意差有

	B1vsB1'	B2vsB2'	C1vsC1'
1	0.583	<0.01	1
2	1.0	0.254	1.0
3	1.0	<0.01	0.565
4	1.0	0.02	1.0
5	0.09	0.285	0.813
6	1.0	0.201	1
7	1.0	0.233	1.0
8	1.0	<0.01	0.448

アクション前後の回答変化



Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

* 2017年教諭調査は複数回答

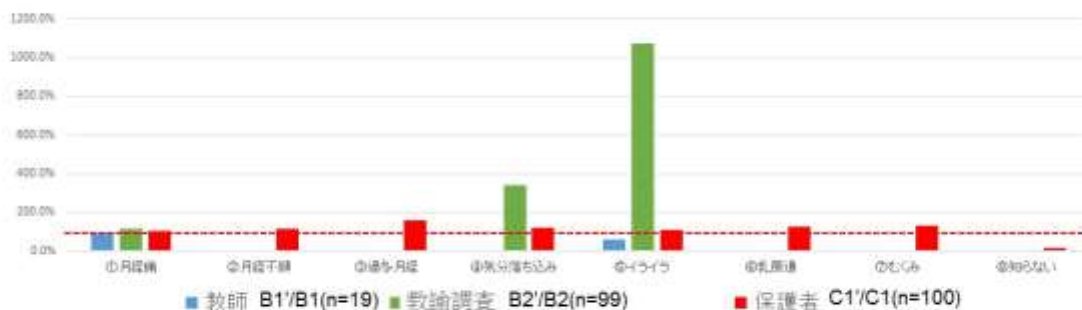
6

思春期女子の月経随伴症状について B1,B1',B2,B2',C1,C1'におけるアクション後の回答変化率

(3) 月経随伴症状のうち最も多くの女子生徒が勉強・運動に影響があると訴えている症状はどれだと思いますか、1つだけ○をつけてくださいの。

1.月経痛 2.月経不順 3.過多月経 4.月経前の気分の落ち込み
5.イライラ 6.乳房の痛み 7.むくみ 8.知らない

参考 アクション後の回答変化率



Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

* 2017年教諭調査は複数回答

7

思春期女子の月経痛による痛みの期間 B1,B1',B2,B2',C1,C1'におけるアクション前後の回答変化

正常な月経周期において痛みがあるのは月経開始からおよそ何日間であるかご存知ですか、1つだけ○をつけてください。

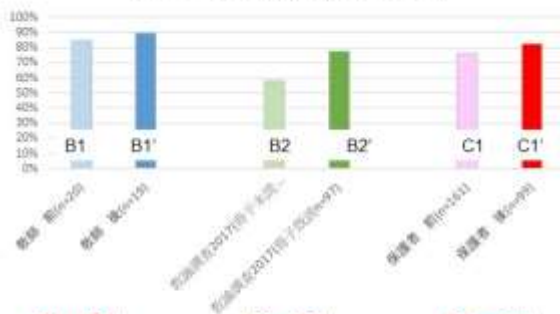
1.1日

2.2~3日

3.4日以上

4.知らない

2-3日と回答した
アクション前後の回答率変化



B1vsB1'

P=n.s.

有意差無し

B2vsB2'

P<0.01

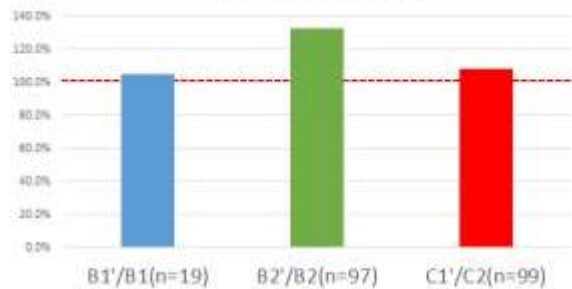
有意差あり

C1vsC1'

P<0.274

有意差無し

参考 2-3日と回答
アクション前の回答変化率



JECIE

Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

8

思春期女子の無月経と骨密度 B1,B1',B2,B2',C1,C1'におけるアクション前後の回答変化

女子生徒の無月経を放置すると骨密度に悪影響があることをご存知ですか、1つだけ○をつけてください。

1.知っている

2.知らない

「1、知っている」と回答した
アクション前後の回答変化



B1vsB1'

P=0.176

有意差無し

B2vsB2'

P=0.023

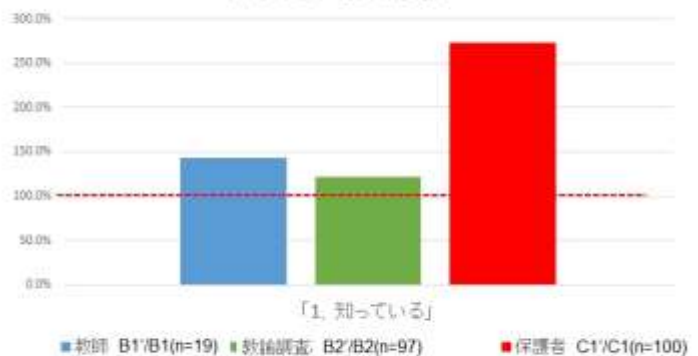
有意差あり

C1vsC1'

P<0.01

有意差あり

参考 「1、知っている」と回答した
アクション後の変化率



JECIE

Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

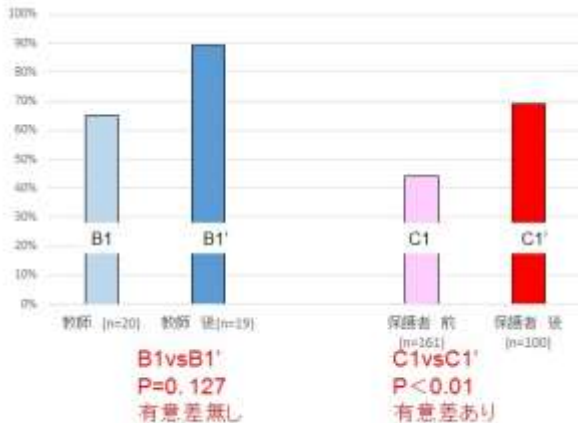
9

月経随伴症状への認識 B1,B1',C1,C1'におけるアクション前後の回答変化

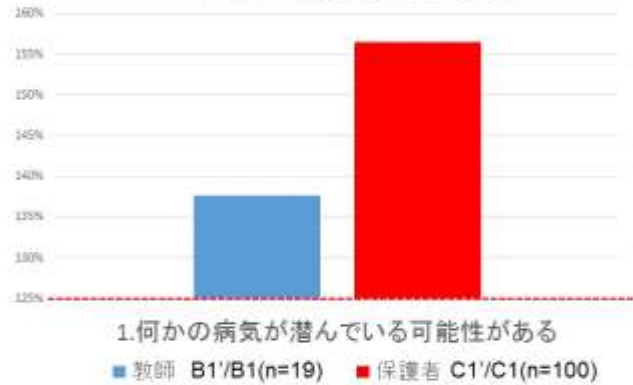
月経随伴症状は病気だと思いますか、1つだけ○をつけてください。

1. 何かの病気が潜んでいる可能性がある 2. 病気ではない 3. わからない

「1. 何かの病気が潜んでいる可能性がある」と回答したアクション前後の回答率変化



参考 「1. 何かの病気が潜んでいる可能性がある」と回答したアクション後の回答変化率



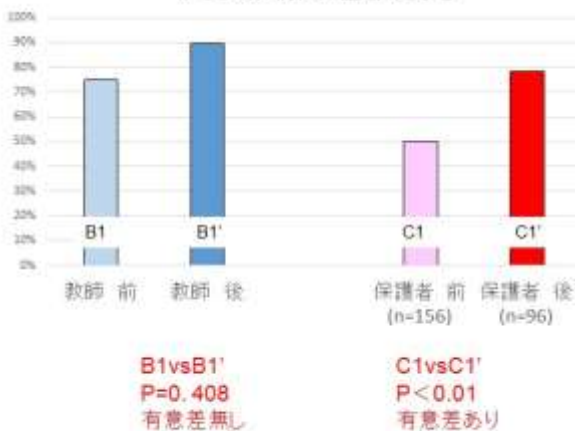
* 2017年教諭調査(B2,B2')に質問無し¹⁰

月経随伴症状の治療への認識 B1,B1',C1,C1'におけるアクション前後の回答変化

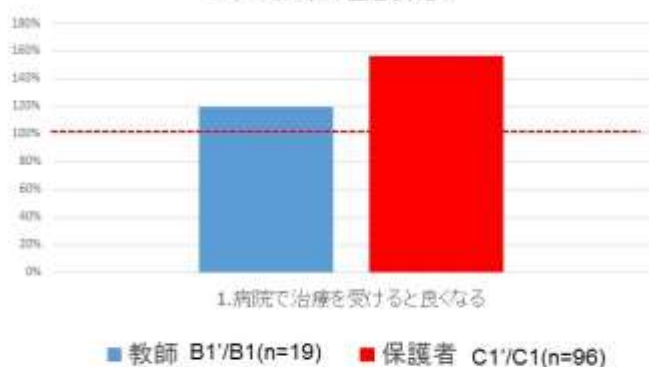
月経随伴症状は治ると思いますか、1つだけ○をつけてください。

1. 病院で治療を受けると良くなる 2. 病院に行く必要はない 3. わからない

「1. 病院で治療を受けると良くなる」と回答したアクション前後の回答率変化



参考 「1. 病院で治療を受けると良くなる」と回答したアクション後の回答変化率



思春期女子の月経随伴症状相談相手 B1,B1',B2,B2',C1,C1'におけるアクション前後の回答変化

月経随伴症状について女子生徒は誰に最も相談していると思いますか。1つだけ○をつけてください。

- 1.保護者 2.担任の先生 3.養護教諭 4.保健体育の先生 5.部活の先生
6.先輩や友達 7.誰にも相談しない 8.その他()

黄色は前後で有意差有

	B1vsB1'	B2vsB2'	C1vsC1'
1	1.0	< 0.01	0.072
2	1.0	0.258	1.0
3	0.395	0.01	0.085
4	1.0	0.01	1.0
5	1.0	0.534	1.0
6	0.653	0.33	0.310
7	0.344	0.542	0.844
8	1.0	0.431	1.0

アクション前後の回答率比較と変化
勉強会・冊子(・保健だより)



B1 教師 前(n=20)

B1' 教師 後(n=18)

B2 教諭調査2017(冊子未読n=323)

B2' 教諭調査2017(冊子既読n=101)

C1 保護者 前(n=154)

C1' 保護者 後(n=96)

12



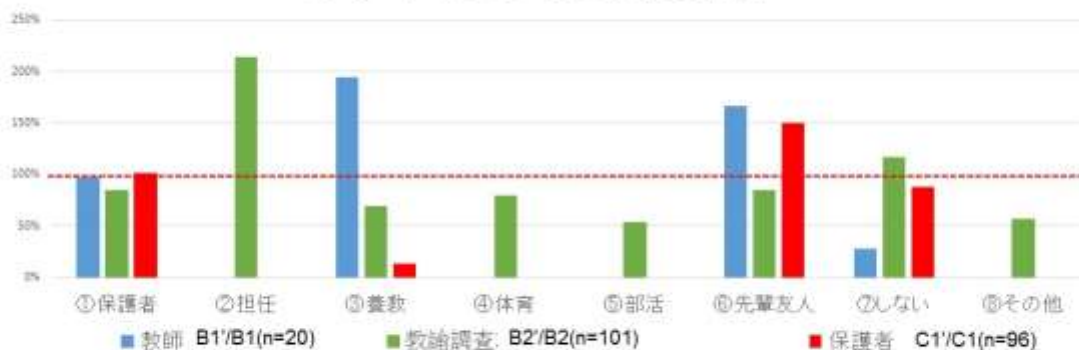
Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

思春期女子の月経随伴症状相談相手 B1,B1',B2,B2',C1,C1'におけるアクション後の回答変化率

月経随伴症状について女子生徒は誰に最も相談していると思いますか。1つだけ○をつけてください。

- 1.保護者 2.担任の先生 3.養護教諭 4.保健体育の先生 5.部活の先生
6.先輩や友達 7.誰にも相談しない 8.その他()

参考 アクション後の回答変化率



Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

13

月経随伴症状への気づき

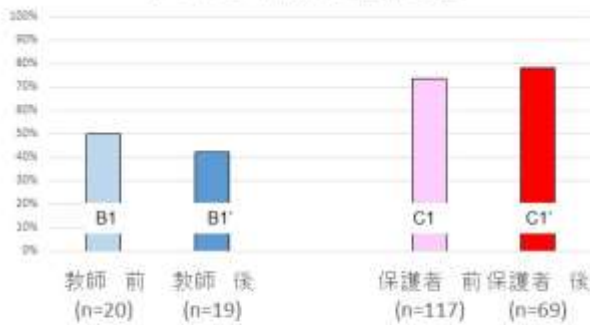
B1,B1',B2,B2',C1,C1'におけるアクション前後の回答変化

女子生徒の月経随伴症状のサインに気づいていますか。1つだけ○をつけてください。

1.気づいている

2.気づかない

「1、気づいている」と回答した
アクション前後の回答率変化



B1vsB1'

P=0.751

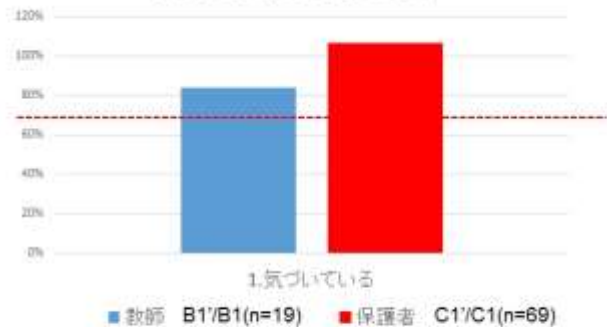
有意差無し

C1vsC1'

P=0.488

有意差無し

参考「1、気づいている」と回答した
アクション後の回答変化率



* 2017年教諭調査に質問無し

14

女子生徒の月経随伴症状に関する相談数変化

B1,B1',B2,B2',C1,C1'におけるアクション前後の回答変化

月経随伴症状で相談に来る生徒は増えましたか。1つだけ○をつけてください。

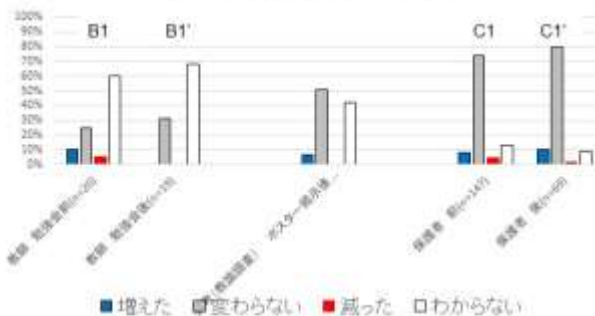
1.増えた

2.変わらない

3.減った

4.わからない

アクション前後での生徒相談数変化(%)



B1vsB1'

P=n.s. V=0.282

V=0.093

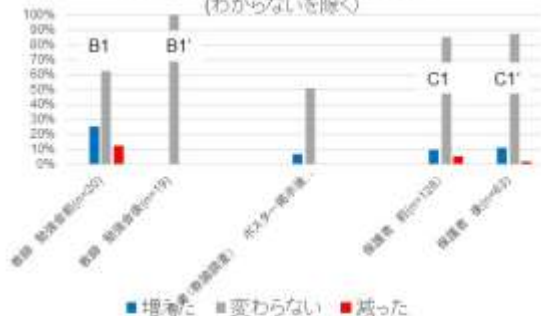
有意差無し

C1vsC1'

P=n.s. V=0.108

有意差無し

アクション前後での生徒相談数変化(%)
(わからないを除く)



B1vsB1'

P=n.s. V=0.452

有意差無し

C1vsC1'

P=n.s.

有意差無し

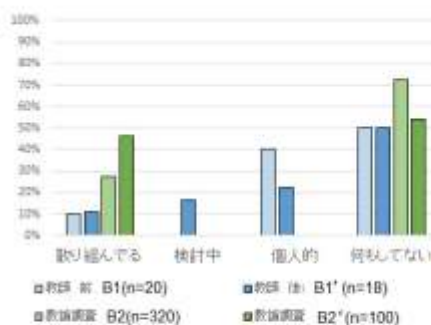
15

思春期女子の月経随伴症状と学校対応 B1,B1',B2,B2',C1,C1'におけるアクション前後の回答変化

月経随伴症状等に関して学校で何か取り組んでいますか。1つだけ○をつけてください。

1. 学校ですでに取り組んでいる
2. 学校での取り組みを検討中
3. 学校では取り組んでいないが個人的に声をかけている。
4. 何もしていない

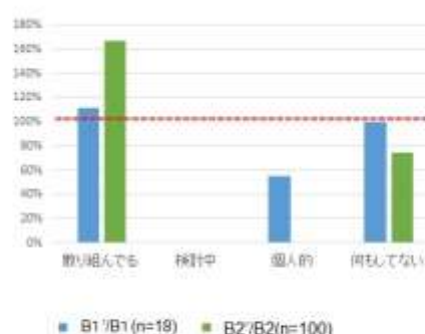
アクション前後における
学校における取り組み変化



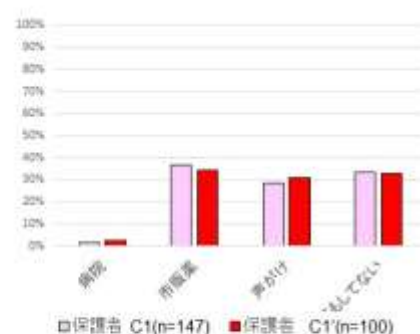
B1vsB1'
P=n.s., V=0.336
有意差無し

B2vsB2'
P<0.01
有意差有り

参考 アクション後における
学校における取り組み回答変化率



参考 保健により配布前後における
家庭での取り組み変化



C1vsC1'
P=n.s., V=0.043
有意差無し

16

JECIE

Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

教師トライアル比較 まとめ

考察

- 生徒と共に教師が勉強会に参加することによりトライアル1・2共にすべての項目において認識が若干増加した。
- 約80%の生徒が月経随伴症状により勉強・運動に支障があることはトライアル後の若干増加したが冊子の方が効果的であるように思われる。
- 思春期女子が月経痛により勉強・運動に支障があることは認知しているが、月経前症候群・月経過多で生徒が困っていることはトライアル後の若干増加した。
- 月経随伴症状に関する相談相手と思われる1位は保護者だが、特に高校では多くの生徒が養護教諭に相談していると思われている。
- 月経随伴症状のサインには勉強会後に減少している。これは、多様な症状があることを学んだためと推察される。
- 調査間隔が短かったため相談件数はアクション前後・トライアル間比較で大きな変化はない。
- 学校における取り組みでは冊子配布の方が効果的であるように思われる。これは管理者である校長の回答が変化に寄与している。

まとめ

- 教師の認識増加は生徒ほどの差はなく、教師のみへの集合研修の効果検討が課題であり、教員研修カリキュラムへの組み込み必要性が示唆された。
- 教師へは学校対応も考慮して冊子配布の内容等検討(内容・大きさ・配布方法・配布時期)と勉強会の2つのアクション検討が必要と思われる。
- 学校においては養護教諭への導線整備が大きな課題として示された。
- アンケートを実施するだけでも認知が上がる可能性が示唆された。

JECIE

Japan Enlightenment Committee in Endometriosis

17

6、まとめ・今後の課題

本事業では、平成 28 年度に実施した中学校、高等学校における教員を対象とした女性特有の健康問題に関する情報周知の取り組みから見えてきた課題を取り上げ、より学校現場の実情に則した健康教育・啓発方法を探り情報提供をすることでより多くの女子生徒の健康を守り、学生生活で勉強やスポーツの場面で十分な力が発揮でき、将来的にも健やかに生活・活躍ができるための環境づくりを教育関係者、医療関係者との連携により実現することを目的として教員調査と 2 つのトライアルを実施した。

教育現場と医療者が連携した取り組みは自治体・学校単位ではすでに先行して成功している地域もあるが、全国的にみるとまだまだ少ないと言えよう。地域ごとの特徴や事情があるのは当然のことながら、しかし子供たちが教育を受ける中で地域によって将来的な健康にも関わる必要な情報を受け取る機会に差があってはならない。学校における月経関連疾患に関する教育は学習指導要領に基づき実施される授業内においては全国画一的に実行する事が困難である現状では、学校現場で独自でも取り組み可能な方法を意識して検討を行った。

保健体育・性教育といった場面での月経教育も重要であるが、まずは女子生徒に月経に係る悩みは恥ずかしい事ではなく、我慢せずに相談しても良いという事を啓発する必要がある。特に学校内においては日常的に生徒と接し、生活や授業態度などの変化にも気づくきっかけのある教職員においては是非とも女子生徒からの相談を待つだけではなく、体調の悪そうな女子生徒を見かけたら養護教諭と連携をとり、生徒が相談しやすい環境づくりをしてもらえるよう願っている。

環境づくりをする中では養護教諭やクラス担任、部活動顧問といった生徒と多くの時間を共有する教職員の働きが不可欠であるが、教職員個人が個々に取り組むだけでは実現困難な場面も多くあるのではないかと思われる。学校内の施策を決定する学校長の理解を得ることが重要であることから、学校長を対象にした研修会、教員対象の研修会プログラムへの組み込みなど既存のシステムを利用した取り組みも是非とも教育委員会にもご検討いただきたい。

本年度のトライアル事業では、残念ながら調査背景および期間の問題により行動変容にまでは至らなかったが、継続的な調査が可能であれば行動変容にもある程度方向性が出る可能性があるかと期待できる。継続調査については課題として検討していく。

今後は、教員対象研修会等の実施での変化、平成 28 年度作成資材の効果との比較も検討していく必要がある。

子供の体力向上課題解決に向けては、女子生徒の積極的な体育授業・部活動への参加や自己の健康管理が可能な環境づくりを目指す、これに向けては教育と医療が連携し、より具体的に効果的な施策を継続的に実施できる体制とシステム構築が望まれる。

平成 29 年度スポーツ庁委託事業

「学校における子供の体力向上課題対策プロジェクト」

中学校、高等学校教員向け等の
女性特有の健康課題に関する普及・啓発
成果報告書

発行：特定非営利活動法人日本子宮内膜症啓発会議

〒104-0045

東京都中央区築地 1-4-8 築地ホワイトビル 803

TEL 03-6228-4804 FAX 03-6228-4364

URL <http://www.jecie.jp>

本報告書は、スポーツ庁の平成 29 年度委託事業として、特定非営利活動法人日本子宮内膜症啓発会議が実施した平成 29 年度「学校における子供の体力向上課題対策プロジェクト」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。